



東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO

学内広報

for communication across the UT



特集：

■東京大学男女共同参画オフィス



130TH
THE UNIVERSITY OF TOKYO

2007.12.14

No. 1367

- Innovation UT from Women -

9月に男女共同参画オフィスがオープンして早3ヶ月。すでに様々な活動が始まられています。そこで今回の特集では、本部棟9階にある男女共同参画オフィスを訪ねて、オフィスを切り盛りする女性研究者支援コーディネーターの都河明子特任教授と渡井いずみ特任助教に現在の活動などをうかがいました！

◆「オフィス」の具体的な活動は？

都河 4つのプロジェクトを企画しています(4~5ページ参照)。プロジェクト1は「キャリア確立10年の支援」。一般的に、女子学生が研究者として独立するまでの期間が約10年。その間、結婚・出産・子育てをする方も多いので支援しようと計画しています。このプロジェクト1を「キャリア支援」と「ライフ支援」の2つに分けました。キャリア支援の大きな目玉は「ポジティブ・アクション」。女性研究者の数を増やすために「2010年までに常

思います。

◆なるほど。では、今後1年くらいの間に東大独自の施策が出てくる可能性もありますね。

都河 そうだといいですね。「国立大学における教員(講師以上)の女性比率」を見ると、東大は4.5%で90大学中71位なんです！この数値をどうやって目標数値に近づけるか。しかし、「優秀な女性研究者を様々な大学から集めてしまうと、本学の評判が落ちるのではないか」と言われる先生もいらっし

著書紹介



①『拓くー日本女性科学者の軌跡ー』
ドメス出版(1996年 共著)



②『翔くー女性研究者の能力発揮』
ドメス出版(2004年6月)



③『理系に行こう!ー女子中高生のための理系案内』九天社
(2006年8月)



AKIKO TSUGAWA

interview

都河明子

(つがわ・あきこ)
男女共同参画オフィス
特任教授・コーディネーター

東京大学理学部・生物化学科卒業後、医科学研究所にて文部技官・文部教官助手として20年間分子生物学を研究(主に転写制御の研究)、医学博士号取得。外資系製薬会社の研究開発本部企画部課長として抗がん剤開発に従事。その後東京大学大学院理学系研究科・国際交流室講師、東京医科歯科大学教授を経て、2007年9月より現職。専門は分子生物学、国際教育、医学教育、科学とジェンダーであり、日本の女性研究者支援のリーダーの一人。2007年4月に文部科学大臣表彰・科学技術賞(理解増進部門)を受賞。国際女性技術者・科学者ネットワーク東アジア代表・日本会長。趣味は東京大学オーケストラに入学して始めたチェロ。

◆まずは、男女共同参画室と男女共同参画オフィスの違いから、教えてください。

都河 昨年、東京大学基本組織規則第18条に基づいて、男女共同参画室が発足しました。担当理事が辰野理事、その下に進学促進部会、勤務態様部会、環境整備部会という、3つの委員会的組織があります。

そして今年、文部科学省から本学に科学技術振興調整費をいただき、男女共同参画オフィスが設立されました。「室」と「オフィス」は必ずしも活動が重なるわけではありませんが、「オフィス」は「室」の実働部隊的な性格を持っています。

勤研究者の採用者に占める女性の比率を25%以上とする」という目標を立てました。また、常勤の女性研究者の割合を理10%、工9%、農15%、保20%と目標を立て、総長も合意されています。このポジティブ・アクション達成のため来週から何人かの科所長さんを訪問し、「どんな施策が東大に適しているのか」をヒアリングする予定です。たとえば、北海道大学のように「女性研究者を1人採用したら、その研究科に3分の1の研究費をつける」というインセンティブを与える方式もあります。そういう具体的な施策を各科所長さんに提案して、積極的に検討していただくよう、お願いしたいと

やいます。たしかに、女子学生を増やして下から育て上げていくという努力が大切なのだとも思いますね。他に、キャリア支援の目標としては「女性研究者の情報ネットワーク構築」と「研究補助人材バンクの設置」を考えています。女性研究者が各部局で孤立して悩む状況を避けるためにネットワークを作ろう。産休明けなどの女性研究者の研究補助者になってくれる人を登録できる人材バンクを作ろう。そんなことを考えています。ライフ支援のほうは渡井さんの担当です。ね、渡井さん(笑)。

渡井 はい。それでは私が(笑)。ライ

フ支援の活動で現在、メインなのは「大学内の保育施設の整備」ですね。一番ニーズの高い本郷キャンパス保育園については、来年4月に開園予定で計画を進めています。また、学内に複数の保育園が出来るので東京大学の保育園の統一基準を作成しており、本郷・駒場・柏・白金の各キャンパスが連携して、より良い東大の保育園を作ろうと議論を重ねています。

都河 4キャンパスとも来年開設予定で急ピッチの展開なんですよ。

渡井 そうですね。実際、現在のメールでの問い合わせは圧倒的に保育園に関する相談が多いんです。私は相談員とい

ポストドクの方からは「育児休暇が取れるか」といった相談ですね。妊娠初期の方で「産むべきか産まざるべきか」といった相談もあります。私は助産師や保健師として相談業務も多く経験してきましたので、非常にそれが生かしていると思います。

◆そういう相談を受け付ける相談室も設置するのですか？

渡井 はい。年明けか、遅くとも4月から特定の曜日と時間を決めて個別相談に対応できる相談室を作る予定です。個別相談数が増えた場合には、私以外にも相談員を置いて、保育園関係の相談などはある程度対応していたら、私は

向け白鳳丸見学会を、理学部ではサイエンスカフェを、それぞれ開催しています。そのような「室」や部局の活動をサポートする意味も込めて、「東大Women(仮)」という女子高生向けDVDを作ろうと思っているんです。

また、3つ目のプロジェクトとして「女性研究者の国際性を育む」というテーマがあります。現在、文部科学省科学技術振興調整費のもとに20の大学・研究所が活動を開始していますが、このテーマは東大独自のものです。このテーマのもとに、11月9日(金)に、米国立科学財団前長官のリタ・コルウェルさんを迎えて講演会を開催しました。

それから、4つ目のプロジェクトとして本学の「女性研究者白書を作ろう」と考えています。本学の男性研究者、女性研究者、それから科所長さんにアンケートをとりたいと計画しています。現在は女性研究者に対する施策が遅れているので女性の支援ばかりやっているように見えますが、本来の男女共同参画の意味から考えれば「男性研究者も深夜まで実験しているのは良いことなのか」ということですね。だから男性の方々からもご意見を伺いたいと思っています。

渡井 そうですね。東大の男女共同参画は、女性ばかりでなく男性も視野に入れた活動にしていきたいですね。これは、いつも、都河先生と私で話していることです。たとえば、保育園に関して言えば、「女性研究者支援が目的なのだから、男性教職員からの入所希望は順位を下げるべきだ」という意見もあります。男女共同参画に対するイメージが人それぞれだということですね。だけど、「男性の子育て」というモデルが東大内で見られるのも大切なことだと思います。

都河 ですから、東大における男女共同参画のキーワードは、ダイバーシティ(多様な人材登用)と……。

渡井 ワーク・ライフ・バランス。

都河 それが今後の活動のカギになってくると思っているんです。

(11月22日 男女共同参画オフィスにて)



interview 渡井いずみ



(わたいいずみ)
男女共同参画オフィス
特任助教・女性研究者
相談室専門相談員

千葉大学看護学部卒業と同時に、保健師、助産師、看護師の資格取得。虎ノ門病院にて助産師として勤務後、国内大手IT関連企業にて保健師として従業員の健康管理に従事。2003年4月東京大学大学院医学系研究科に進学し、修士・博士課程を経て、2007年9月より現職。

専門は産業保健、地域看護、子育て支援、ワーク・ファミリー・バランス。特に健康的視点からの仕事家庭間の葛藤研究における国内の先駆者である。相談者の目線に立った支援を心がけている。子どもを持つ前はテニスに熱中していたが、最近の気晴らしは家族で出かける温泉。



IZUMI WATAI

う立場ですので、様々なご相談を受け付け始めています。まだ、相談室は設置されていませんが、メールによる相談や問い合わせはかなり来ています。保育園に関するメール相談では、女性だけでなく男性の教職員や院生、留学生、また外国の研究者を受け入れる指導教員の先生からも「本郷の保育園はいつ出来るのか」、「どこか子供を預かってくれるところを紹介してほしい」といった相談が多く寄せられています。

都河 すでに実際にお会いしての相談業務も始めていますよね。

渡井 はい。例えば妊娠中の方からの相談で、学生さんですと「休学できるか」、

じっくり相談に乗る必要のある方に重点を置こうと思っています。

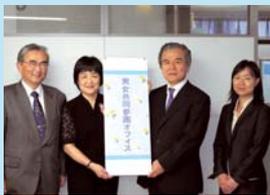
◆プロジェクト2の「プレキャリア10年の支援」というのは？

都河 ここでいう「プレキャリア」とは「女性が大学院に入る前の10年間」を指しています。つまり、プロジェクト2は「女子中高生の皆さんにいろいろな情報を提供して、東大の女子学生を増やしていこう」という試みです。すでに、「室」の進学促進部会が中心となって様々な試みを行っています。オープンキャンパスでは「女子学生コース」を設けていますし、部局単位でも、海洋研究所では女子高生

男女共同参画オフィスの紹介

21世紀の世界の課題の一つは、性別をこえた人々のつながりを創り出し、より豊かな文化と社会の活力を育てることにあると思います。東京大学でもその課題に向かって行動が始まっています。

平成19年度文部科学省科学技術振興調整費(女性研究者支援モデル育成)が採択されたことに伴い、専任の教職員を配置し、2007年9月『男女共同参画オフィス』が本部棟9階にオープンしました。主に4つのプロジェクトの活動を開始しています。このオフィスは女性だけのものではありません。ワーク・ライフ・バランスを考えながら男女共に働きやすい環境を作っていきたいと思います。



看板上げ式
(左から)辰野理事、都河特任教授、小宮山総長、渡井特任助教

ライフ支援

女性研究者がキャリアを確立する10年の時期に遭遇しやすいライフイベントである妊娠、出産、子育てに対する支援に重点を置いた活動をします。

●大学内の保育施設整備

本郷、駒場、白金、柏キャンパスに教職員や学生等が利用できる保育園を整備し、それぞれの連携ネットワークを構築します。

●女性研究者支援相談室の設置

本郷キャンパス内に相談室を設置し、個人のキャリアや家庭状況に合わせて、きめ細やかな情報提供やアドバイスを行います。

●情報ネットワーク構築

学内の子育て支援制度や両立のノウハウについて情報交換や交流できる場を設けます。

オフィスの活動

オフィスでは、次の4つのプロジェクトの活動を企画しています。



東大病院いちよう保育園
(本郷キャンパス)

キャリア確立10年の支援

キャリア支援

女性研究者の育成・支援のうち、女子学生が研究者として独立するまでの10年を重点支援します。

●ポジティブ・アクション

2010年までに男女共同参画への職場意識を高め、女性研究者の就労環境を改善していく下記の取り組みを展開します。

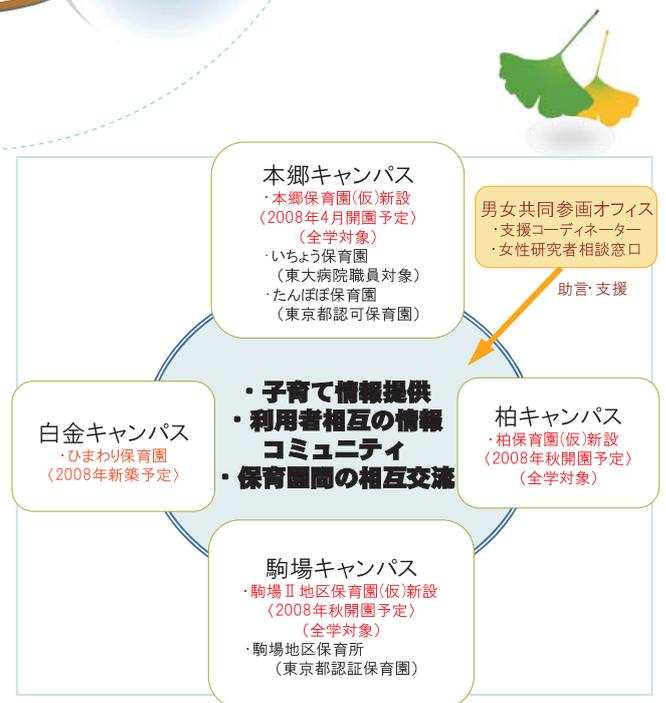
- ・採用研究者(常勤)の女性比率を25%以上とします。
- ・常勤の女性研究者の分野別女性比率の目標を理:10%、工:9%、農:15%、保:20%とします。

●女性研究者の情報ネットワーク構築

各学部の女性研究者のネットワークを構築し、女性研究者がそれぞれの部局で孤立し悩むことなく、全学的に交流することを可能にし、改善に向けての施策提言等を行います。

●研究補助人材バンクの設置等

東京大学の保育園



● プレキャリア10年の支援 ●

主に女子中高校生を対象に、現役の理系女子学生や社会で活躍している女性研究者の活動を紹介します。ロールモデルを提供するとともに理系を専攻することによる将来の不安を払拭することを目的とした活動を行います。



輝け未来！オーシャンサイエンスで活躍する女性研究者(海洋研究所)

● 女子高校生向け冊子

「Perspectives」の作成(2007.12)

● 女子高校生向けDVD

「東大Women(仮)」の作成(2008.3 完成予定)

● オープンキャンパス

「女子学生コース」実施(進学促進部会主催)

● 就職ガイダンス等



女子高校生のための「サイエンスカフェ本郷」(理学部)

● 女性研究者の国際性を育む ●

研究者の視野を広げるために、国際的に活躍する女性研究者をお招きして、シンポジウム等を開催します。

● リタ・コルウェルさん講演会

「科学技術分野における女性研究者の活躍促進」(2007.11.9) 下記参照



● 国際シンポジウム

「世界のスーパー女性研究者が語る」(2008.3.28 開催)

レポート

プレジデント・カウンシル連携企画 リタ・コルウェルさん講演会

11月9日(金)、山上会館大会議室にて、米国立科学財団の前長官で科学者であるリタ・コルウェルさんを迎え、総長室プレジデント・カウンシル事務局と男女共同参画室の共催で、講演会が開催されました。

講演会は「科学技術分野における女性研究者の活躍促進」をテーマに、問題提起・基調講演・ディスカッションの三部で構成され、まず日本および東京大学の現状と課題について、都河明子・男女共同参画オフィス特任教授と村嶋幸代・男女共同参画室室長(医学系研究科教授)より問題提起がなされました。「科学技術分野における国際的リーダーシップを！ー日本の女性研究者の活躍に期待」と題されたリタ・コルウェルさんの基調講演では、世界の女性科学者のバイオニア達の紹介を通して、日本の女性研究者へエールが贈られました。約70名の学内外の参加者から質問が次々と寄せられ、成功裡に幕を閉じました。

インフォメーション

男女共同参画室&オフィスのHPをリニューアルしました。

2007.11.26に東京大学男女共同参画室&オフィスのHPをリニューアルオープンしました。コンテンツも充実し、多くの情報が得られるようになりました。ぜひご覧ください。
<http://kyodo-sankaku.u-tokyo.ac.jp/>



リーフレットを作成しました。 「東京大学 男女共同参画の取り組み」

室&オフィスの活動を紹介しています。ご希望の方は、下記まで問合せください。



初めての女子東大生

東京大学に女子が初めて入学したのは、1946(昭和21)年のことです。本年は創立130周年にあたりますが、女子東大生の歴史は60年ほどです。写真は、東大の女子第1期生19人のうちの一人藤田晴子さん。既にピアニストとして活躍されていました。



スタッフ紹介



窪島 結子(オフィススタッフ)



中村 和代(オフィススタッフ)



東京大学の男女共同参画活動を支える面々

問合せ先

東京大学 男女共同参画オフィス

〒113-8654 東京都文京区本郷7-3-1 本部棟9階
TEL: 03-5841-0291, FAX: 03-5841-0290
e-mail: sankaku@adm.u-tokyo.ac.jp
<http://kyodo-sankaku.u-tokyo.ac.jp/>

NEWS

Prelog Award Medal 受賞

大学院薬学系研究科長・柴崎正勝教授のPrelog Award Medal 受賞が決定いたしました。

柴崎正勝 大学院薬学系研究科長・薬学部長

スイス連邦工科大学 (ETH) 化学科の最高の賞であるPrelog Award Medalが柴崎教授に授与されることが決まりました。

本メダルは、ノーベル化学賞受賞者の(故)Prelog教授の業績を称え、1986年に設けられたものであり、立体化学に関する研究で顕著な業績をあげた化学者1名に毎年贈られています。これまでの受賞者22名中2名がノーベル化学賞を受賞しています。日本人受賞者としては、山本尚シカゴ大教授(1993年)、岸義人ハーバード大学教授(1995年)に続いて3人目になります。授賞式と受賞講演は、2008年10月27日、チューリッヒのETHでおこなわれる予定です。



一般ニュース



本部奨学厚生グループ

学寮・国際学生宿舎で消防訓練を実施

10月27日(土)、本部奨学厚生グループ所管の学寮・国際学生宿舎において、消防訓練を実施した。

まず、10時から白金学寮において、3階のキッチンからの出火を想定した避難訓練、消火器の取扱い説明、水入り消火器による消火訓練、実際に火災を目撃した場合の通報訓練、自動火災報知設備及び屋内消火栓の操作説明等、各種訓練を行った。高輪消防署の都合により、あいにく消防署の指導は受けられなかったものの、厚生チーム職員の指導に耳を傾け、熱心に訓練に取り組む寮生の姿が見られた。参加者は14名と少なめだったが、防火防災体制の整備を進める良い機会となった。

続いて14時から、豊島学寮及び豊島国際学生宿舎において、豊島消防署巢鴨出張所職員の指導のもと、消防訓練が行われた。まず、豊島学寮南寮4階のキッチンにて出火した想定で、避難訓練が行われた。寮生は、寮全体に響き渡るほどの大きな声で避難の呼びかけをするなど、本番さながらに取り組んでいた。普段はあまり意識することのない避難経路等について、改めて確認する機会となり、有意義な訓練となった。

また避難訓練後、豊島国際学生宿舎中庭にて、水入り消火器を用いた消火訓練を行った。その他、火災報知機受信盤や屋内消火栓の使用法、心肺蘇生法について説明を受け、参加した34名の寮生は、説明に対し活発に質問するなど、消防署員の話に真剣に聞き入っていた。

台風が近づくあいにくの天気の中行われた訓練だったが、寮生にとって防災意識を高める良い機会となった。



水入り消火器を用いた消火訓練(白金学寮)



消防署員の話に耳を傾ける寮生(豊島国際学生宿舎)

10月30日（火）13時より鉄門記念講堂において第2回国家基幹技術「海洋地球観測探査システム」フォーラムが文部科学省、海洋研究開発機構（JAMSTEC）、宇宙航空研究開発機構（JAXA）、東京大学地球観測データ統融合連携研究機構（EDITORIA）の4機関により、科学ジャーナリスト 瀧澤美奈子氏の司会で開催された。参加者は省庁、大学、企業等の多方面から270名を超えた。

国家基幹技術は、全球観測・監視技術と海洋探査技術により得られた観測データを統合して社会・科学に有用な情報として提供するシステムの研究と開発であり、第2回となった本フォーラムでは国民の安全・安心を確保する観点から災害監視、特に気候変動と風水害・地震に焦点を当て、研究開発者とユーザーの両面からの講演が行なわれた。

開会に先立ち、内閣府総合科学技術会議 相澤益男議員より、国家基幹技術という大きなプロジェクトだからこそ、既存の枠を越えたデータの統合が可能となることを期待するとのご挨拶があった。文部科学省研究開発局海洋地球課 近藤秀樹課長よりフォーラム開催の趣旨説明があり、引き続きJAXA 小澤秀司執行役員より地球観測衛星のデータ活用による災害被害の軽減・予防のための識別・解析技術の向上と利用の推進、JAMSTEC 末廣潔理事より次世代海洋探査技術の開発と地球深部の探査による地震・津波の予防・減災への貢献に関する話があった。研究開発側からは最後にEDITORIA 小池俊雄機構長より、予測最適化システムの構築により大容量データを統合管理し、ダムの最適操作等に活用して防災に役立てたいとの講演があった。

ユーザー側からは産業総合研究所 佃榮吉コーディネータ、鉄道総合技術研究所 木谷日出男部長、首都大学東京 河村明教授から、高分解能衛星データの利用への期待、今後データを個人・企業でのリスクマネージメントに役立てたいといった利用者としての講演が行われた。その後、講演者7名に京都大学防災研究所 寶馨教授がモデレーターとして加わり「自然災害の脅威に立ち向かう最先端科学技術」と題し、パネルディスカッションが行われた。一般参加者も交えて活発な質疑応答が行なわれ、国家基幹技術は今まで単独であった個々の技術を束ねてシステムとすることが大きな転換であり、国民に裨益できるような研究を進めて行きたいと結びの言葉があり17時に閉会となった。



ご挨拶される内閣府総合科学技術会議 相澤益男議員



パネルディスカッションの様子

環境安全本部 東京大学喫煙対策宣言
平成19年10月31日 総長裁定

喫煙は、健康に対して多大な負の影響を与え、肺癌を含む呼吸器疾患や循環器疾患など多くの疾病の原因である。加えて、喫煙は火災の主たる原因の一つでもある。また、これらの被害は喫煙者のみに限定されるだけでなく、非喫煙者の受動喫煙問題など、学内において活動する全ての人に及ぶものである。

東京大学は、喫煙による非喫煙者の受動喫煙による健康障害への対策を行うとともに、タバコを原因とする火災から大学の保有する資料並びに文化財などの後世に伝えるべき貴重な資産を守っていかなければならない。

そのため、東京大学喫煙対策基本方針を定め、東京大学における適切な喫煙対策を実施し、健康で安全な大学を目指して継続的な活動を行うものである。

本学は、上記の喫煙対策宣言を行い、キャンパス内を原則禁煙とすることを骨子とする喫煙問題への取り組みの方針を定めました。この喫煙対策は、防火と受動喫煙防止を目指したものであり、今後、東京大学として喫煙対策を段階的に進めていく最初のステップとなります。

本喫煙対策は次の5点を基本方針として実施されま

- 1 キャンパス内原則禁煙（指定喫煙場所を除く）

- 2 喫煙場所の整備と管理による十分な受動喫煙防止と防火措置
- 3 大学敷地内でのタバコの販売の禁止
- 4 禁煙指導などの支援
- 5 3年以内の喫煙対策基本方針の見直し

今回の対策においては、キャンパス内のいかなる建物も例外ではなく、個人に割り当てられた居室や研究室も対象として対策を講じることとなります。また、自動車内も車外に煙が漏れるおそれがあることから禁煙の対象としており、キャンパス内の歩行喫煙も禁止されることとなります。

これらの対策は、平成20年4月1日を施行日としており、それに向けて現在、学内の環境整備を進めているところですので、皆様のご理解とご協力をお願い致します。

喫煙対策の詳細については、下記の環境安全本部のホームページをご覧ください。

■喫煙対策宣言及び基本方針

http://www.adm.u-tokyo.ac.jp/gakunai/office/anzenisei/admin/smoke/smoke_sengen.pdf

■喫煙対策実施要領

http://www.adm.u-tokyo.ac.jp/gakunai/office/anzenisei/admin/smoke/smoke_youryou.pdf

一般

本部キャリアサポートグループ

平成19年度第2回学生窓口業務担当者講習会を開催

平成19年度第2回学生窓口業務担当者講習会が、11月13日（火）に数理科学研究科棟大講義室において開催された。

本講習会は、学生の窓口業務を担当する職員を対象に、学生の声を受け止め機敏に対処する等、相談窓口の円滑な対応に必要な基礎知識を修得させることを目的に実施されたものである。

午前、福田倫明講師（保健センター）による講義「精神疾患の基礎知識」、午後は石垣琢磨准教授（駒場学生相談所）による「駒場学生相談所からみた駒場の学生像」の講義の後、丹野義彦教授（駒場学生相談所運営委員長）、石垣琢磨准教授、平石界助教（駒場学生相談所）、井野英江臨床心理士（保健センター）による演習が行われ、参加者29名は熱心に講習に取り組んでいた。

近年、学生の人間関係の悩みから学習・進路の悩みまで、学生相談の窓口などに寄せられる学生のニーズは質量とも増大し、悩みを持つ学生は一部の特殊な学生ではなくなっている。大学が支援機能を強化することは緊急の課題であり、東京大学アクション・プラン（2005-2008）の中でも、学生相談所、保健センター、ハラスメント相談室など学内の相談窓口の連携強化を図るための学生支援センター（仮称）構想が位置づけられている。

こうした大学の方針を受けて、今年2月から学生相談連絡会が設置され、全学の相談窓口の連携体制の整備、窓口業務担当職員の資質の向上等に取り組んでいるが、その一環として、保健センターと学生相談所の協力を得て、本講習会を開催することになったものであり、7月に続き今回で第2回目となる。



演習風景

一般

本部奨学厚生グループ

「東京大学外国人留学生特別奨学制度および姜裕文奨学基金（東京大学フェロシップ）平成19年度10月期研究奨励費受給者証書授与式」を開催

「東京大学外国人留学生特別奨学制度および姜裕文奨学基金（東京大学フェロシップ）平成19年度研究奨励費受給者証書授与式」が、11月14日（水）13時30分から、関係役員等の臨席の下に本部棟中会議室で開催された。

外国人留学生特別奨学制度は、「大学院における特に優秀な私費外国人留学生に対し研究奨励費を支給することにより、本学での学術研究への取組を支援するとともに、諸外国からの優秀な留学生の受入促進に資すること」を目的として、平成16年度から設立されたものである。また今回から、本学卒業生である姜裕文氏からご寄附をいただき創設された姜裕文奨学基金による受給者2名が初めて採用された。

本年度10月期は、修士課程大学院学生5名、博士課程大学院学生3名、姜裕文奨学基金は修士課程大学院生2名の合計10名（月額15万円、支給予定期間：平成19年10月から標準修業年限の最終月まで）が受給者として決定され、当日は浅島理事・副学長から受給者一人一人に受給者証書が手渡された。



東京大学外国人留学生特別奨学制度受給者証書授与

次いで、浅島理事・副学長から「多くの応募者の中から選ばれた皆さんに、学業や研究に力を尽くしていただきたい。姜裕文さんという、理解ある方のご寄附があったことを大変感謝したい」旨の挨拶があった。引き続いて、受給者を代表して姜裕文奨学基金採用者大学院工学系研究科の李眩倅さんから、感謝のスピーチがあった。



平成 19 年度研究奨励費受給者と関係者

<問い合わせ先>

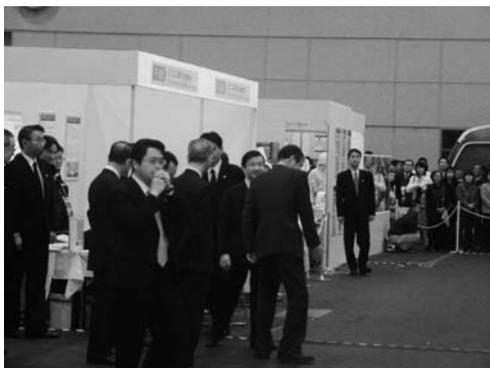
本部奨学厚生グループ奨学チーム
内線 22548



本部人材育成グループ

本学が 2007 年ユニバーサル技能五輪国際大会に初めての出展

「2007 ユニバーサル技能五輪国際大会」として開催された「第7回国際アビリンピック」は、11月14日（水）から18日（日）まで静岡市において、世界の約55の参加国、約30万名の来場者数をもって盛況に開催された。この大会に、本学は今回初めて参加した。当日は好天にも恵まれた。



アビリンピック会場に御臨場された皇太子殿下

「国際アビリンピック」は、障がいのある人の職業的自立の増進と職業技能の向上を図り、事業主及び社会一般の理解と認識を深め、さらに国際親善を図ることを目的として、概ね4年に一度開催されている。

日本からは、約150の企業等が展示ブースを設けて出

展し、障がい者の就業する職種の実演、わが国の障がい者雇用の制度、就業実態をパネル、映像等で紹介した。これらは皆、障がい者の雇用啓発を目指すものである。本学も展示ブースを設けて障がい者を雇用する事業主の取組みや障がいを持つ方に働きやすい職場環境を提供する支援機器の紹介、パネル、DVD、パンフレットの出展を行った。



本学の展示ブースを視察した上川内閣府特命担当大臣

また、この大会は名誉総裁である皇太子殿下が御臨場され、上川内閣府特命担当大臣及び次期開催国である韓国、カナダの要人、各国の要人等も視察されていた。盛大な会場の雰囲気の中に、大会は無事終了した。障がい者雇用制度等が益々改善され、進展することを祈念するとともに、この大会が次期開催国への橋渡しの礎となることを期待している。



アビリンピック会場の全体展示ブース風景



本学の展示ブース風景



本部キャリアサポートグループ

博士課程学生・ポストドクター対象 企業説明会開催

11月16日(金)17時から本郷キャンパス安田講堂を会場として、キャリアサポート室主催の博士課程学生・ポストドクター対象企業説明会が開催された。

2005年に開設されて以来キャリアサポート室では、学部学生、大学院学生を主たる対象として卒業生との交流の場の提供、業界・企業について研究する場の提供、キャリアアドバイザによるキャリア相談などのサービスを行ってきた。本年度から、ポストドクターにも本格的に門戸を開いてゆくための第一歩として、これらのうち業界・企業研究とキャリア相談を行うためにこの説明会が開かれた。

安田講堂3階の回廊部分に出展14社の個別テーブルを設置、参加した学生、ポストドクターはそれぞれのテーブルで企業の人事担当者や技術部門担当者らと懇談する形式。キャリアサポート室の予想を大きく上回る230人以上が来場して盛会となり、予定の2時間を過ぎて懇談の続くテーブルがいくつも見られて盛り上がりを見せた開催であった。



本部人材育成グループ

東京大学教職員永年勤続者表彰式行 われる

平成19年度の東京大学教職員永年勤続者表彰式が、11月22日(木)10時から、本部棟12階大会議室において、小宮山総長、濱田理事・副学長、辰野理事、関係部局長及び関係事務(部)長等の列席のもと行われた。

表彰式では、被表彰者63名を代表して、医科学研究所附属病院検査部病理検査室臨床検査技師 小野田春男さんに表彰状の授与並びに記念品が贈呈された。総長から挨拶の後、被表彰者を代表して、生産技術研究所総務課副課長 加藤淳さんより謝辞が述べられた。



小宮山総長から表彰状と記念品を受ける小野田春男さん



小宮山総長に謝辞を述べる加藤淳さん

なお、本年度表彰された方々は次のとおりである。

人事・労務系	浅川 敏 秀
	佐々木 守
	平井 秀 明
財務系	朝野 英 彦
	上原 功
施設・資産系	後藤 正八郎
附属図書館	石川 一 樹
	山本 和 雄
情報基盤センター	伊藤 真 之
	本多 玄
大学院法学政治学研究科・法学部	遠藤 健 三
	日名地 昭 好
大学院医学系研究科・医学部	青木 敦 弘
医学部附属病院	市川 安 人
	内山 久美子
	小川 真 美
	小原 一 枝
	粕谷 大 智
	木村 久美子
	杉浦 宗 敏
	清野 一 男
	高橋 典 子
	高橋 雅 人
	柘植 美 恵
	長谷川 陽 子
	御園生 里 美
	宮口 ひろ子
	横田 一 彦
	米屋 由実子
	割田 秀 彦
大学院工学系研究科・工学部	荒川 英 一
	鈴木 真 一
	中村 吉 伸
	廣石 大 介
	山本 泰 成
大学院情報理工学系研究科	土肥 浩
大学院人文社会系研究科・文学部	富澤 稔
	渡 邊 康

大学院農学生命科学研究科・農学部	犬 飼 浩
	黒 岩 真 弓
	佐々木 潔 州
	澤 田 晴 雄
	近 昭 彦
	寺 田 珠 実
	寶 來 貴 子
大学院経済学研究科・経済学部	厚 谷 つかさ
大学院総合文化研究科・教養学部	佐 藤 正
医科学研究所	尾 上 和 夫
	小野田 春 男
	山 本 雅 久
	渡 邊 純 一
社会科学研究所	武 笠 まゆみ
生産技術研究所	今 村 泰 代
	大 塚 由 紀 子
	加 藤 淳
	木 下 誠 一
	土 田 茂 宏
	三 浦 藤 明
史料編纂所	藁 谷 美 枝 子
物性研究所	篠 江 憲 治
	中 澤 和 子
	福 島 昭 子
海洋研究所	酒 井 勝
	以上63名



奨学生証書を受け取る鄭 秀珍さん



**東京大学創立130周年記念事業
東京大学学部・研究科、研究所及び
センター事務(部)長OB懇談会開催**

11月29日(木)、山上会館において東京大学創立130周年記念事業の一つとして、学部・研究科、研究所及びセンター合同の事務(部)長OB懇談会が開催されました。このように全部局の事務(部)長OBが一同に会する懇談会は初めてのことであり、最年長の昌谷春海(さかやはるみ)(84歳)(元経済学部事務長、昭和47年退職)をはじめ栗原文良(81歳)(元工学部事務部長、昭和62年退職)、中谷繁(81歳)(元医科学研究所事務部長、昭和62年退職)、伊佐卓男(81歳)(元物性研究所事務部長、昭和62年退職)氏など総勢47名のOBが参加し、現役事務(部)長を交えての懇談となりました。

冒頭、幹事を代表して鈴木社会科学研究所事務長から本会開催の経緯等について説明があった後、中塚地震研究所事務長の進行及び根岸人文社会系・文学部事務長のサポートにより、和やかな雰囲気では進められました。濱田理事・副学長からは、「大学をとりまく情勢について」と題して、法人化後の本学の現状が報告されましたが、同理事が在職していた新聞研究所(その後、社会情報研究所を経て、現在は情報学環となっている)時代の思い出の中の事務長さんは、大変怖い存在であって、なかなか近寄りがたかったとの話に会場は大爆笑となりました。

三浦経理・調達系統括長(生産技術研究所事務部長OB)からは、本学の近況報告として、学内調達の変遷と合理化に向かう本部事務体制の紹介及び、現在は大学機関毎の評価がされて、中期目標・中期計画の達成状況を評価され次期中期目標期間中の運営費交付金に反映される等非常に厳しい状況であることの紹介がされました。また、先輩講話として、昌谷春海氏、栗原文良氏、中谷繁氏、伊佐卓男氏及び松本栄三郎氏(元教養学部事務部長、平成4年退職)から現役時代の思い出や東大紛争時代のエピソード等が紹介され、また、現役の事務(部)長に対して、部下職員の幸福を展望しつつ、一丸となって業務遂行に励むよう叱咤激励がなされました。井上農学生命科学研究科事務部長の閉会の挨拶で会を閉じまし

本部留学生支援グループ

平成19年度第2回「外国人留学生支援基金奨学生証書授与式」開催される

教職員ならびに卒業生の方々などからの寄附金で運用されている「外国人留学生支援基金」は、平成19年度第2回奨学生(奨学金月額5万円/支給期間:平成19年10月~平成20年3月)として10名の留学生を採用し、11月28日(水)に奨学生証書授与式を開催した。式においては、平尾副学長(外国人留学生支援基金運営委員会副委員長)及び高橋理事・副学長(同委員会委員)の臨席の下、浅島理事・副学長(同委員会委員長)から奨学生に証書が手交され、「本奨学金は、多額のものではないが、教職員、卒業生等の方々の善意によるものであるので、留学生活に役立てて、研究・勉学に励んでほしい。」との挨拶があった後、奨学生を代表して大学院農学生命科学研究科博士課程の鄭 秀珍さん(韓国)から、「奨学金のお陰で学業に専念することが可能となった。帰国後も韓国・日本両国間の教育や文化などの交流にも尽力したい。」との謝辞が述べられた。

なお、本奨学生受給者は、前身の外国人留学生後援会から通算して今回で240名となった。ここに本基金の趣旨に御賛同いただいている皆様の御支援に対し、改めて御礼申し上げる次第である。

だが、参加OBからは来年も開催するよう要望が出される等、和気あいあいのうちに散会しました。最後に本会の開催を支援していただきました本部関係者の方々に幹事一同心より感謝いたします。



OB 参加者



大学の現状を報告される濱田理事



OB 代表で挨拶される昌谷春海氏

本部入試グループ 入試事務室の設置

平成 20 年度入学者選抜実施に関する事務を処理するため、1 月 1 日（火）から 3 月 31 日（月）までの間、入試実施委員会のもとに、入試事務室が設置されることとなった。

入試事務室は、教育・学生支援系副統括長兼入試グループ長を室長に室長代理、室長補佐及び室員若干名をもって構成される。

室員は、入試グループ職員のほか、本部各系等から派遣される事務職員で、およそ 3 ヶ月にわたり、入学試験に関する業務にあたる。

本部入試グループ



平成 20 年度大学入試センター試験 の本学割当数決まる

平成 20 年度大学入試センター試験の東京地区での割当数が、74,671 人に決まり、このうち本学が分担する志願者数は 10,834 人に確定した。なお、平成 20 年度は、本郷試験場及び教養学部試験場の他、都立高等学校 2 校・私立高等学校 3 校の計 5 校を借用して実施することになった。各試験場ごとの割当数及び担当学部は、次のとおりである。

試験場名		志願者数	担当学部
1	法学部	985	法学部
	経済学部	530	経済学部
	工学部	1,124	工学部
	その他	6	薬学部
	小計	2,645	
2	東京大学教養学部試験場	3,104	教養学部
3	都立白鷗高等学校試験場	800	教育学部
4	私立富士見丘高等学校試験場	1,120	医学部
5	私立海城高等学校試験場	1,170	文学部
6	都立日比谷高等学校試験場	960	理学部
7	私立開成高等学校試験場	1,035	農学部
合計		10,834	

部局 ニュース



大学院数理科学研究科

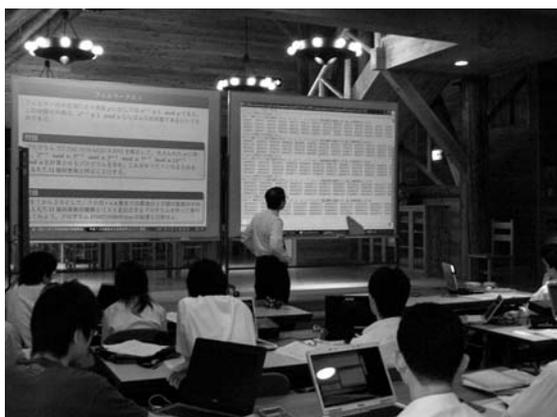
玉原国際セミナーハウスで 「群馬県高校生玉原数学セミナー」 を開催

大学院数理科学研究科は、群馬県教育委員会高校教育課と共催で、東京大学玉原国際セミナーハウス（群馬県沼田市上発知町玉原高原）において「群馬県高校生玉原数学セミナー」を開催しました。日程は9月15日（土）から17日（月）の2泊3日。高校生を対象に群馬県下で行われている数学コンテスト参加者のうちから希望者を募り、その上位20名が選抜されて参加しました。

今年度のセミナーのテーマは「素数」。数理科学研究科長、群馬県教育委員会からの挨拶で始まり、4名の数理科学研究科教員による素数に関連した7つの講義、コンピュータを駆使した3つの演習を中心に、玉原湿原とぶな平へのハイキング、TAの学生、院生との交流会などもおこなわれました。最終日には参加した高校生全員にセミナーの修了証書を授与して閉会しました。

このセミナーは、数理科学研究科の地域貢献活動の一環として、平成18年度から群馬県教育委員会の予算で開催されています。授業風景のビデオは、玉原国際セミナーハウスのウェブページにあります。

<http://tambara.ms.u-tokyo.ac.jp/>



コンピューターによる演習風景

大学院総合文化研究科・教養学部

三鷹国際学生宿舎で 新入居留学生の歓迎会行われる

10月7日（日）、三鷹国際学生宿舎において、新たに入居した留学生約50名を迎え「秋まつり & Welcome

party」が宿舎生会と院生会（留学生の宿舎生活を支援する大学院生によるチューター組織）の共催により行われた。

日中は秋空のもとテニス・バドミントンなどのスポーツ・ゲーム大会、夜は懇親パーティーという二部構成で行われ、留学生、学部学生、宿舎OB会メンバー約130名が参加しスポーツ & 食欲の秋を満喫した。懇親パーティーには、大学から長谷川壽一総合文化研究科副研究科長・教養学部副学部長、太田邦史三鷹国際学生宿舎運営委員会委員長等の教職員数名も参加し、新たに入居した留学生を歓迎するとともに宿舎生との交流を楽しんだ。



留学生には珍しい食材をふんだんに使ったおでん



宿舎生集って歓談の一幕

二部の懇親パーティーでは、おでん、焼きそばなどの料理を、留学生も交えた宿舎生が協力して手作りにすることにより、普段は顔を合わせることもなかった宿舎生同士の交流が促進された。参加者の国籍や年齢は様々であったが、飲み物を片手に、自ら作った料理を味わいながら会話を楽しみ親しさを増していた。会の中盤には、棟対抗のクイズ大会、絵を使った伝言ゲームが行われ、新しく知り合った仲間とチームを組んだ参加者らが、賞品を目指して白熱する様子が見られた。終盤のビンゴ大会では、数字が揃った参加者が賞品をもらうと同時に自己紹介を行い、楽しいコメントが飛び出すなど終始なご

やかなムードで盛会のうちにパーティーは進み、秋の一日は新たな交流の場として過ぎていった。



クイズ大会でメロンを獲得した優勝チーム



伝言ゲームで自ら描いた絵と一緒に

医科学研究所

慰霊祭行われる

医科学研究所では、同附属病院で亡くなられ、病理解剖させていただいた方々の御霊をお慰めするために、10月11日（木）13時30分から医科学研究所慰霊祭を挙行了した。

式は、参列者全員による黙禱に始まり、献体者御尊名の奉読の後、清木所長が「御霊に捧げることば」を述べた。続いて、御遺族及び医科学研究所教職員が献花を行い、最後に、山下病院長から御遺族に対して感謝のことばがあり、14時過ぎに滞りなく終了した。



「御霊に捧げることば」を述べる清木所長



遺族への感謝のことばを述べる山下病院長

分子細胞生物学研究所

第12回分生研シンポジウム開催される

10月11日（木）に分子細胞生物学研究所と（財）応用微生物学研究奨励会／坂口基金との共催により、「Structural biology of membrane transporters - 膜輸送体の構造生物学」と題する第12回分生研シンポジウムが一橋記念講堂にて開催された。（財）応用微生物学研究奨励会設立50周年と東京大学創立130周年とを記念するシンポジウムでもあり、海外からは2003年にノーベル化学賞を受賞したロデリック・マッキノン教授（米国・Rockefeller大学）を筆頭に、カスパー・ロヒャー助教授（スイス・ETH Zurich）、エリック・ゴウ教授（米国・Oregon Health & Science 大学）、国内からは東京工業大学の濡木理教授と大阪大学の村上聡准教授、分生研からは徳田元教授と豊島近教授の計7名の演者らが最新の研究成果を紹介する講演を行った。

生命の維持には、細胞がイオン、伝達物質、薬剤等の取り込みや排出を行うことが必須であるが、イオンチャンネル、トランスポーターやポンプは細胞膜に存在しこれらの機能を司る。近年構造が続々と解明され、最も熱い研究分野の一つになりつつある。イオンチャンネルの原子構造を最初に決定し、イオン選択機構を構造から解明したことがマッキノン教授のノーベル賞の受賞理由であったことを考えればそれは明白であろう。今回のシンポジウムは、この分野で世界を牽引する面々が日本で一堂に会す、またとない機会であった。学内外の関心も高く、約250人と多くの人々に参加して頂いた。質疑応答の時間のみならず、休憩時間中にも演者らを取り巻く輪があちこちにできていた。特に印象的なのはマッキノン教授であった。ノーベル賞を受賞する程の成果をあげていても、現在の自身の研究上の問題を打破したいが為に聴衆に実験のアイデアを尋ねるといふ、科学に対するひたむきな姿勢には強い感銘を受けた。

以上の様に、シンポジウムは大変充実したものとなったが、遠く日本までおいで下さった海外の先生方、また国内の演者の先生方、そして何よりも当日シンポジウムに足を運んで下さった聴衆の方々はこの場を借り感謝したい。



熱心に聞き入る参加者達



講演するロデリック・マッキノン教授

大学院教育学研究科・教育学部
 附属中等教育学校で「第2回三者協議会」が行われる

10月20日(土)13時30分から15時40分まで教育学部附属中等教育学校、新教育棟の実習・実験室において、2007年度第2回目の三者協議会が行われた。(司会、本校国語科大井和彦教諭)生徒25名・保護者30数名・教員25名の計約80名が参加した。今回のテーマは「読書の秋～心の糧となる読書を考える」であった。

はじめに、5年生の高橋柊さんが、事前に行われた(本校1年～5年対象)の「読書」に関するアンケート結果を報告した。1ヶ月に本をどのくらい読むかで、「0冊が27%」「1～3冊が53%」「4～6冊が11%」「7～9冊が4%」「10冊以上が5%」であった。0冊の割合は、全国平均よりは少なく、本校の生徒は比較的読書はしていることがわかった。

ある保護者は、「子どもにアガサクリスティーの本を与えたことで、本に興味をもち、いまではたくさんの本を読むようになったこと」の経験談を話してくれた。5年生は「読書するとその副産物として、漢字がわかるなど得られるものが多いこと」を指摘してくれた。また、1年生は、「読書することで、国語の物語文の読解に役に立つ」と述べた。

草川剛人副校長は、「読書は、映画やラジオとは違い、文字という記号を読み、イメージを立ち上げて理解するという力のいる仕事であり、その人の経験が関わる」と

述べ、また、自身の6年日本史の授業では毎時間1冊の本を紹介していると話した。

本校の図書館業務に携わる原久子さんは「生徒たちにもっと図書館に来てほしい」と述べた。生徒は「学校の図書館を明るくすることや、絨毯を敷いたりラックスできるスペースができることを希望している」という意見を出した。また、保護者からは、「古い本は廃棄して新しい本にすること」「先生方の影響力は大きいのでさまざまな本を紹介してほしいこと」といった要望もでた。

おわりに、よりよい図書館の環境にするために、図書を描える金銭面と、整理に関わる人件面を考慮して、保護者のかたにもお手伝いしてもらいながら、図書館整備を前向きにしていけることが確認された。



三者協議会の様子

大学院教育学研究科・教育学部
 平成19年度「留学生旅行」報告記

10月24日(水)爽やかな秋晴れの中、教育学研究科では、毎年恒例の留学生旅行が行われた。年々参加者が増え、今年は、43名という過去最高人数の留学生が参加した旅行になった。留学生とチューター、教職員が一台のバスに満杯になって乗り込み、目的地である山梨は甲斐の国へと向かった。

一行は、まず始めに400年前に再建された恵林寺という臨済宗の禅院を訪れた。その後は、甲州ワインのワイナリーを見学して、ぶどう狩りに興じた。留学生たちは、どこに行ってもガイドの説明に熱心に耳を傾けた。ほうとう鍋を囲んで舌鼓をうつなど、日頃の研究活動の交流とはまたひと味異なる文化交流を楽しんだ一日であった。



ぶどう狩りの前に品種の説明に耳を傾ける留学生たち



青空のもと、山梨の伝統料理を楽しむ

生産技術研究所

「外国人研究者・留学生との懇談会」
開催される！

部局

10月24日（水）夕刻より、駒場リサーチキャンパスのユニバーシティ広場において、外国人研究者及び留学生と教職員等との国際交流を促進する目的で、生産技術研究所主催の「外国人研究者・留学生との懇談会」が開催された。



前田所長の挨拶

本懇談会は、生産技術研究所の国際交流委員会、懇談会実行委員会、事務部・国際交流チームの企画のもと、100人以上の教職員・学生ボランティアにより、例年通り国際色豊かな各国料理を屋台で提供する形式で行われた。今回は全部で7つの屋台（インド・パキスタン、インド、フランス、インドネシア、中国、日本）が出店され、各屋台に長蛇の列ができ、本場のカレー、餃子、クレープなどを楽しみつつ、随所で国際交流を深める人々の輪ができた。また、フランス屋台では「ペタンク」という金属のボールを使って行うフランスのスポーツのデモも行われ、好評を博した。

当日は天候に恵まれたこともあり、参加者は447名（参加者334名、ボランティア・スタッフ113名）と大盛況の会であった。



インド屋台のマトンカレー＆コラカティ

生産技術研究所

「第3回駒場キャンパス技術発表会」
開催される

部局

10月26日（金）、大学院総合文化研究科18号館ホールを会場に、技術発表会が開催された。これまで生研を会場として開催してきたが、今年は共催し、総合文化研究科のある駒場Iキャンパスに会場を設け開催した。

発表会当日は開会が近づくにつれ風雨が強まってきたこともあり、参加者の出足を心配したが、いざ発表が始まると聴講者も熱心に聴き、発表に対する質疑や討論も熱心に行われた。

今年特に感じたのは、登壇された皆さんが発表慣れしている事である。この技術発表会は学会と違い専門知識を持ち合わせない聴講者が多いにも関わらず、聴講者に理解されやすい話し方やテンポであった。技術職員の仕事にはなかなか表現することが難しい内容が多いが、実に心遣いのある発表であった。

恒例となった招待講演では物性研究所の技術職員が、強磁場研究の「現状と将来計画」について講演し、また特別講演では日本電産コパル株式会社の研究員による「光学要素技術」について講演があった。

今年は従来行っているメールや技術報告集の事前送付での開催通知方法以外に、産学連携本部ホームページへの掲載、および協賛企業への通知をしていただけることになり、慶應義塾大学の技術職員のほか、企業からも参加を得られた。

例年優秀な発表に対して贈られる所長賞は、鶴達郎さんの「固体表面の話」、西山祐司さんの「STLデータを利用した5軸マシニングセンタによる多面加工」が選ばれた。

今年も企画段階から開催に至るまで、多くの技術職員のご協力をいただき、心から感謝申し上げます。



発表中の技術職員

柏キャンパスリエゾン室

柏キャンパス一般公開開催

部局

10月26日(金)、27日(土)の両日にわたり柏キャンパス(大学院新領域創成科学研究科、宇宙線研究所、物性研究所、人工物工学研究センター、空間情報科学研究センター、高温プラズマ研究センター、気候システム研究センター、環境安全研究センター柏支所、柏図書館)及び柏Ⅱキャンパス(生涯スポーツ健康科学研究センター)において、一般公開が創立130周年記念イベントのひとつとして開催された。



特別講演を行う講演者

この一般公開は、地域・社会との連携・交流や知的啓発を目指して、柏キャンパスへ移転した当初から実施されてきたもので8年目になり、一昨年からは始めた柏の葉キャンパス駅からの送迎バスも好評であった。

公開内容は、キャンパスとして特別講演会を柏図書館で開催したのを始め、各部局とも、日頃の研究成果の紹介、実験コーナー、入門講座等それぞれ特色ある催しが行われ、特に、物性研究所で行われた「ガイドツアー」(スタッフによる見どころ案内)は、毎回、多数の参加者で好評であった。

また、両日雨の中、特に2日目は台風が近づく中、来場者の激減が予想されたが、首都圏新都市鉄道(株)(つくばエクスプレス)、東武鉄道、東武バス、東京メトロをはじめ、柏市、流山市など地域の方々の協力による宣伝効果もあり2日間を通して約2,700名の方々が訪れ地域に開かれたキャンパスの雰囲気を感じられた。



送迎バスから降りる来場者



実験に参加する来場者

大学院総合文化研究科・教養学部

留学生見学旅行を実施

部局

総合文化研究科・教養学部では10月27日(土)・28日(日)の両日、日光・益子へ留学生見学旅行を実施した。参加者は留学生33名(大学院生12名、学部生21名)と引率者4名、総勢37名であった。

初日は季節はずれの台風に見舞われたが、最初の見学地、理学系研究科附属植物園日光分園では、楓をはじめ雨に濡れた木々の彩りが一段と鮮やかだった。昼食後、風雨がさらに激しさを増す中、世界遺産に登録されている日光東照宮へ向かった。華やかな陽明門や三猿・眠り猫・鳴き龍などを見学し、おみくじやお土産をかううちに予定の2時間はあっという間に過ぎた。



理学系研究科附属植物園日光分園にて

二日目は台風一過、最高の見学日和となった。山頂がうっすら雪化粧している男体山のすばらしい紅葉を眺めながら、いろは坂、中禅寺湖、戦場ヶ原へと向かい、雄大な自然を満喫した。その後、華嚴の滝に向かい、前日

の豪雨で増水し大迫力で流れ落ちる滝と周辺の紅葉の美しさに、まるで絵葉書のようにと歓声があがった。

最後に陶芸の町益子を訪ね、「ろくろ体験」を行い、芸術の秋も楽しんだ。初めはこわごわ粘土を扱っていた留学生達も、時間が経つにつれ、隠れていた芸術的才能を発揮し、個性豊かな素晴らしい作品を次々に生み出した。窯で焼かれた作品が1ヶ月半後に駒場に届くのを、皆で首をながくして待っているところである。

普段はなかなか接する機会がない学部生と大学院生が大自然の下で交流することが出来、とても有意義な2日間となった。



戦場ヶ原にて



益子での「ろくろ体験」

大学院教育学研究科・教育学部

附属中等教育学校で「学びの共同体」研究会行われる

10月29日(月)13時30分から16時30分まで教育学部附属中等教育学校、新教育棟の多目的室において、2007年度第3回目の「学びの共同体」研究会が行われた。

附属学校では、2005年度から「学びの共同体」づくりをはじめている。校内の教職員約40人と校外からの参加者約40名の計約80名で行われた。授業は、4年C組(40名)で、国語科「太宰治『富嶽百景』」(授業者、梅原章太郎教諭)であった。

導入でテキストの「音読」がはじまり、読みを間違えると次の生徒に交代していく方式で、生徒は集中していた。教科書には引用されていない箇所は、旧字体まじりのプリントが配布され、難しい漢字に対して真剣に取り組む生徒が印象的であった。その後、テキストのまとめのプリントが配布され、内容の理解と文中の「私」がど

のように富士を感じているかを、読み取らせた。個人でじっくり考えたあと、グループになって確認させた。「音読」について、音読させる理由は「きちんと読める生徒は、意味もとれている」ことであり、読みの確定を行うためであると説明された。

静岡県富士市立元吉原中学校の稲葉義治校長は「『北斎』の図録をまわしているとき、となりの子がそっと近寄ってみる姿をみて、いい関わり方ができている」と感想を述べた。また、3年生のときと比べて成長著しいという意見があった。それは、この学年が中学2年の2年前(2005年度)より始まった「学びの共同体」づくりの中で、生徒なりに学びのスタイルを身につけ、グループでの学び合いが上手になっていることが指摘された。指導助言者の大学院教育学研究科の佐藤学教授は「梅原先生が生徒たちを、文学を接点にして大切にしていること」を指摘し、「クラスが開放的であり、まちがいが許される教室であるから、自然と学び合い、分かり合うという理想が存在している」と述べた。



授業の様子

分子細胞生物学研究所

動物慰霊祭

第10回「東京大学分子細胞生物学研究所実験動物慰霊祭」は10月30日(火)11時より、農学部附属動物医療センター奥の動物慰霊碑前において執り行われた。当日は秋晴れの空の下99名の参列者があり、内藤動物実験委員長からの挨拶と一年間の動物実験概要の報告に続いて、教職員・学生等参列者による焼香がしめやかにおこなわれた。

分生研では研究所本館地下のSPFマウス実験施設及びウサギ飼育室、本館玄関前の新動物舎、そして生命科学総合研究棟地下の実験動物施設を利用して、多くの教職員・学生等が遺伝子改変マウスの作製及びその解析、抗がん剤の評価、神経系や造血系の初代培養細胞の分離、タンパク質の精製、抗体の作製などの目的で実験動物を使用している。その数は過去一年間にマウス約14,000匹、ラット26匹、ウサギ12羽にも上り、これらの動物実験で得られた新しい知見は学会や学術論文に発表され、それぞれの専門分野において高く評価されている。

ここに分生研の研究活動のために尊い命を捧げてくれ

た動物たちの御霊に感謝と追悼の意を表します。

分生研における動物実験は今後ますます盛んに行われるようになるものと思われるが、「動物の愛護及び管理に関する法律」(平成17年改正)、「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針」(平成18年)を遵守し、動物実験等に関する基本理念である3R(Replacement, Reduction, Refinement)を尊重して、必要最小限の動物を用いて最大限の研究成果が挙げられるよう、関係する皆様方のなご一層の努力をお願いしたいと思います。

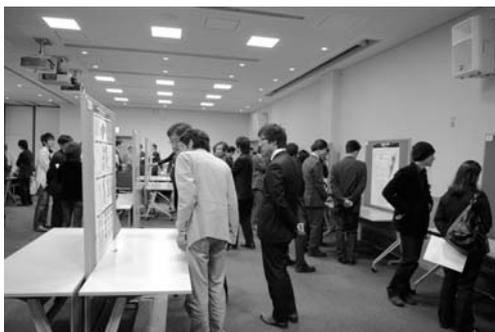


慰霊碑に焼香する内藤動物実験委員会委員長(写真左)

空間情報科学研究センター

CSIS DAYS 2007 を開催

11月1日(木)～2日(金)に、柏キャンパス総合研究棟6階大会議室において、空間情報科学研究センターの主催によりCSIS DAYS 2007(全国共同利用研究発表大会)が開催された。CSIS DAYSは、空間情報科学の最新の学術研究を広く周知し、関連する研究者の交流の場を実現するために毎年行われている学術大会であり、全国共同利用施設である空間情報科学研究センターの主要な行事の一つである。今年度は1)自然環境・水資源・災害、2)生活・市民活動・防犯、3)手法・データ・システム、4)土地利用・人口・教育の4つのセッションが開催され、合計52件の発表が行われた。発表の形式は5分間の口頭発表とポスターセッションを組み合わせたものであり、多くの活発な議論が行われた。参加者数は約200名であり、北海道・九州といった遠方からの参加者もあった。



CSIS DAYS 2007 のポスターセッション

大学院医学系研究科・医学部

解剖体慰霊祭が行われる

11月2日(金)14時から、台東区谷中の天王寺において平成19年度医学部解剖体慰霊祭(解剖体数105体)が、ご遺族約170名、医学部関係教職員約40名及びこの春教養学部より進学し、初めて解剖実習に臨んだ医学科3年の学生約110名の合計約320名参列のもとに執り行われた。

本慰霊祭は、ご遺体を医学教育と医学の進歩発展のために捧げられた方々の御霊に感謝し、お慰めするため、ご遺族をはじめご縁故深い方々のご臨席を得て毎年実施されているものである。

住職以下7名の僧侶による読経が境内に流れた後、飯野副学部長による祭文の朗読、焼香が行われ、ご遺族代表、教職員総代、来賓代表の焼香と続いた。学生代表として、医学科3年の山名隼人さんの焼香に続き、参列者全員が焼香を行った。

本堂における行事を終えた後、千人塚において僧侶による読経が行われ、隣接する医学部納骨堂での焼香を行い散会した。



解剖体慰霊祭にて祭文を朗読する飯野副学部長

大学院法学政治学研究科・法学部

バーベキュー・パーティを開催

11月3日(土)、法学政治学研究科・法学部では、留学生や外国人客員研究員と教職員が親睦を深めるために、国営昭和記念公園(立川市)でバーベキュー・パーティを開催した。10月入学の留学生を中心に留学生が32名、外国人客員研究員が1名、日本人チューターが1名、そして教職員や参加者の家族を合わせて計66名が参加した。

有志の男子学生8名に他の参加者よりも1時間早く集まってもらい、場所取り、コンロと椅子テーブルの設営、

調理器具と食材の配布を行った。ちょうど準備が整った頃、全員が集合。12時から8グループに分かれて、バーベキューを開始した。天候の心配があったが、バーベキューを始める頃から日が差し始め、青空が広がって暖かなバーベキュー日和となった。



コスモス畑の前で集合写真

肉、魚、野菜、焼きそば、各グループが思い思いの順序で調理し、テーブルを囲んで食文化の違いや日本での生活などを話題にしながらかしく談笑した。みな満腹になり、座っていると風が肌寒く感じられるようになったので、2時ごろ一旦散会した。公園内を散歩したい者が集まり、井上正仁研究科長を先頭に、広い園内を散策し日本の秋を満喫した。

青空の下、参加者たちはのびのびとリラックスした一日を過ごすことができ、バーベキューを通じて学生同士、そして学生と教職員との親睦が一層深まり、大変有意義な会となった。



井上正仁研究科長も BBQ に参加



BBQ の風景

社会科学研究所



末廣昭教授「樫山純三賞」の受賞について

社会科学研究所・末廣昭教授の著書「ファミリービジネス論 ―後発工業化の担い手―」が、現代アジア研究をテーマにした独創的な図書を表彰する「樫山純三賞」を受賞した。

この賞は、財団法人樫山奨学財団の設立 30 周年を記念して、同財団の設立者樫山純三氏の遺志を生かすために 2006 年度に新設されたもので、社会科学の方法を用いた現代アジア研究における傑出した業績を表彰し、その業績をより広く世に知らしめることを通じて、日本とアジア諸国の相互理解のさらなる進展を願い、それに対応できる人材の育成に資することを目的としている。

同財団の説明によれば、本来、若手研究者を想定した賞として考えられたものであるが、末廣教授の著書は、候補にあげられた著書の中でも、独創性及び学問的水準において卓越したものであることが評価され、今回の授賞となった。また、今回の授賞により、新設間もないこの賞が、より広範囲の関心を集め、一層、財団設立者の遺志が活かされることを希望しているとのことである。

同書は、後発工業国の経済発展の担い手である「ファミリービジネス」の実態を、タイを中心に理論的実証的に明らかにし、後発国のファミリービジネスと工業化との関連を解明したものである。1800 社の企業データ、1 万人を超える人物データ、200 人を超えるタイ語の「葬式本」、30 年分の華語新聞の志望・婚姻記事などをもとに、一から積み上げられていったタイのデータベースがもっているが、その末廣教授の二十数年に及ぶ地道な努力が結実したものである。

表彰式は、11月6日（火）18時から、ホテルニューオータニで多数の列席者を得て執り行われた。末廣教授は、「若手の受賞機会を奪ってしまったようで申し訳ない気持ちもあるが、長年にわたった地道な努力が認められたことを素直に喜びたい。」と受賞の喜びを語った。



受賞した末廣教授

放射線安全管理功労者表彰で文部科学大臣賞を受賞

平成19年度の「原子力・放射線安全管理功労表彰」の放射線安全管理功労者部門に、大学院工学系研究科・工学部安全衛生管理室の野村貴美准教授と、アイソトープ総合センター放射線管理部門の野川憲夫助教が選ばれ、11月8日（木）、虎ノ門パストラルにおいて文部科学大臣賞の授賞式が行われた。

「原子力・放射線安全管理功労表彰」は、(財)原子力安全技術センター、(財)日本分析センターが主催し、(財)核物質管理センター、(社)日本アイソトープ協会及び放射線障害防止中央協議会の協賛、文部科学省の後援を得て、原子力・放射線安全管理功労表彰委員会を設置し、実施するもので、多年にわたり原子力・放射線の安全管理に従事し、その安全確保に尽力した個人又は事業所に対してなされる。両氏とも、放射線取扱主任者として、放射線安全管理業務に多年にわたり従事し、安全確保に尽力したことが評価されたものだが、加えて、野村准教授は、学内外における安全管理教育に努め、安全確保に貢献したことが認められた。

また、野川助教は、液体シンチレータ廃液焼却法の改善及び焼却炉の性能向上に努め、安全確保に貢献したことが認められたものである。

この度の受賞は、両氏の永年のご功労が認められたものでたいへん喜ばしいことである。更に、本学にとっても名誉であり、大きな励ましとなる。今後とも放射線安全管理の一層の充実に努めることを誓うものである。



文部科学大臣賞を受賞した、野村准教授（左）、野川助教（右）

医科学研究所

動物慰霊祭行われる

「平成19年度医科学研究所動物慰霊祭」が、11月8日（木）11時から、同研究所内の動物慰霊碑前において執り行われた。本慰霊祭は、医科学の発展のため貴重な知見を与えてくれた数多くの諸動物達の霊を慰めることを目的とし、毎年度実施されているものである。

当日は、秋晴れの空の下、清木所長から慰霊の言葉が

述べられ、甲斐知恵子実験動物研究施設長から、1年間の実験動物についての概要報告があり、約250名の教職員・大学院生等の参列者から、動物達の御霊に感謝と哀悼の意が表されるとともに、献花がしめやかに行われ、滞りなく終了した。



慰霊の言葉を述べる清木所長



献花する参列者

総合研究博物館

平成19年度「学芸員専修コース」の終了

総合研究博物館では、11月12日（月）から15日（木）の4日間の日程で「学芸員専修コース」を開講しました。

「学芸員専修コース」は国内の博物館、美術館、資料館、埋蔵文化財センターといった多様な文化教育研究施設で学芸員としての業務に従事する専門職員を対象とし、講義とワークショップを通じて受講生の企画力・技術力の向上を目指す講座です。

「アート&サイエンス—博物資源のリコントラクション」をテーマにした今回のコースでは、本館教員のほか、グラフィック・デザイナーの原研哉氏がテーマに基づき、講義を行いました。本館での講義に続き、後半のワークショップは小石川分館で行われ、ミュージアムの多様な標本群を学術分野の枠組みを超えて連携させ、独自性のある展示企画を構想する、という難題に、受講者はそれぞれの専門性を生かしたアイデアを捻出し、クロスオーバーディスカッションを通して博物資源に新しい価値を発見しようと試みました。

講座を終えて修了証書を受け取った受講生からは「大変有意義な研修で、この4日間を通じて得たことを今後

の活動に活かしたい」などの感想が聞かれました。



原研哉氏の講義風景

大学院経済学研究科・経済学部

リーマン・ブラザーズ証券株式会社 寄付講座懸賞論文表彰式が行われる

11月15日（木）に経済学研究科・経済学部においてリーマン・ブラザーズ証券株式会社寄付講座懸賞論文表彰式が行われた。表彰式には、本研究科長をはじめとする大学関係者、受賞者の方々だけでなく、リーマン・ブラザーズ証券株式会社からもご出席頂いた。

受賞者は以下の通りである。

最優秀賞：福西洋介（大学院経済学研究科修士課程金融システム専攻）

優秀賞：伊藤彰彦（経済学部経営学科）
三鍋有生（経済学部経済学科）
箕浦征郎（経済学部経済学科）
山本幸（大学院公共政策学教育部）
吉田泰己（大学院公共政策学教育部）

この懸賞論文は、（1）ヘッジファンドに大量の資金が流入している理由、（2）投資家に対するヘッジファンドの投資戦略の説明、（3）日本の金融機関の国際競争力について、というようなテーマの中から選んで小論文形式で短い論文をまとめるものである。それぞれのテーマが金融の先端の知識を求められるものであるが、最優秀賞の福西君はもとより、優秀賞の5名の論文ともレベルの高いものであった。

なお、最優秀賞の福西君には、ニューヨークへの研修旅行の機会が与えられ、リーマン・ブラザーズ本社やニューヨーク証券取引所などの視察が予定されている。本研究科の金融システム専攻や大学院公共政策学教育部では、高度な学問的な基礎が求められると同時に、実際の経済の動きに精通することも求められる。そうした意味では、企業からの寄付講座によって、このような形で懸賞論文の募集を行うことができることは意義深いものである。



リーマン・ブラザーズ証券株式会社担当者、受賞者、研究科長、及び大学関係者との記念写真

史料編纂所

図書館団地総合防災訓練実施される

11月21日（水）14時から約1時間半、図書館団地総合防災訓練が実施された。この訓練は団地内の各部局（附属図書館、教育学部、社研、情報学環、史料）が持ち回りで毎年実施しているもので、本年度は史料編纂所が実施部局として、自衛消防隊訓練と本郷消防署による消火実技訓練、応急救護訓練及び文京区役所による起震車、煙ハウスでの地震、火災体験訓練を行った。自衛消防隊訓練では、実際の119番通報から初期消火訓練（各部局からの応援を含む消火器による消火と消火栓のホースを延ばしての消火訓練）、避難誘導訓練等を全所員参加のもとに実施した。

また、本郷消防署による訓練では消火器による実技訓練を各部局参加者が体験し、応急救護訓練では署員から人工呼吸、AED（自動体外式除細動器）の説明を受けた。文京区の起震車による地震体験では過去の地震データによる揺れを、煙ハウスでは火災時の煙体験を多数が体験した。約90名の方々の参加を得て有意義なうちに訓練を終了した。



消火器訓練



煙ハウスによる煙体験

海洋研究所

学術研究船「白鳳丸」見学会

部局

文部科学省「女子中高生の理系進路選択支援事業」の委託事業として実施している「輝け未来！オーシャンサイエンスで活躍する女性研究者たち」の一環として、11月24日（土）、25日（日）の両日、海洋研究開発機構の協力を得て、晴海埠頭停泊中の学術研究船「白鳳丸」見学会が行われた。

対象は女子中高生、教員、保護者とし、最初に本所副所長木暮教授及び白鳳丸の藤田船長から挨拶があり、引き続き海洋科学研究や海洋観測に関する講演会の後、船内見学を行った。参加者は甲板でバケツや採水器を使った海水の採取、ネットによるプランクトンの採取等を実際に体験し、船内の実験室で解析方法の説明を受け、また顕微鏡下での観察を行った。さらに本所の各分野の大学院生等から、試料採取の方法、それをどのような研究にどのように使うのか等の具体的な解説が行われ、参加者も興味深げに説明を聞いていた。講演と実習により、女性も研究船に乗船し、海洋科学研究に大いに進出していることの情報発信に努めた。

今回の見学会に至るまでの活動として、女性教員、女子大学院生等が栃木県や埼玉県の高校に出かけ、女子高校生に対する出張授業を行った。講義にはこの事業のために独自に作成した海洋科学のテキストを用い、教員による講義だけでなく、女子大学院生による体験談等も盛り込まれ、女子生徒の関心を惹いた。

出張授業及び白鳳丸乗船後の質疑応答やアンケート結果によれば、一連の実施を通してこの事業が海洋科学という学問分野の普及活動を促進し、次代の海洋科学を担う人材の掘り起こしの一助になった様子が窺えた。

なお、この事業は初期の段階では女性教職員が中心であったが、事業の展開に伴い、男女合わせて多くの教職員、ポスドク、大学院生等が関わり協力し合い、さらに白鳳丸船員の多大な協力を得て成し遂げられた意義深い取り組みであったといえよう。



班ごとに大型プランクトンネットを見学する参加者



採水器を見学し、海水の採取方法の説明をうける参加者

留学生センター・地震研究所

留学生のための地震防災セミナー

部局

11月26日（月）午後、留学生センターでは、地震研究所等との共催により、本学に在学する留学生を対象にした「留学生のための地震防災セミナー」が実施された。当日は、17カ国39名の留学生が参加し、他大学などからの見学もあり、狭い会場は参加者で溢れた。本年度は、地震研究所に加えて外国人支援活動を行っているボランティア団体「文京多言語サポートネットワーク」や文京区役所防災課の協力も得て、多面的な角度からの地震に備える防災知識を得る講座となった。特に、ボランティア団体の協力により、英語、中国語、韓国語による多言語通訳対応を行ったため、より広範な留学生にとって参加しやすいセミナーとなった。

地震研究所によるメカニズムの説明には、過去の大震災のビデオも盛り込まれ、特に地震体験の少ない国からの留学生は大きな衝撃を受けていたようであった。また、後半は文京多言語サポートネットワークと区役所防災課による地震に対する日常の備えや、非常時の対応の説明があった。これには、非常食や、避難袋の実物も提示され、より現実感のあるセミナーとなった。セミナー後のアンケートには、「これまでなにも知らなかった。非常に有益だった」、「これから非常持出品や、飲料水の備蓄をする」という声が多数寄せられた。また、今後自分の

地域で行われる避難訓練に参加してみたいという意見もあり、日本で暮らす外国人留学生にとって有意義なセミナーとなった。

なお、同様の企画が、11月14日（水）に駒場キャンパス18号館コラボレーションルームで実施され、これにはAIKOMプログラムを中心に9か国16人の留学生が参加した。



地震研究所、辻宏道准教授による講義

大学院農学生命科学研究科・農学部
大学院薬学系研究科・薬学部

東京大学生物機能制御化合物ライブラリー機構・
文部科学省ターゲットタンパク研究プログラム
事務局 合同開設報告会・合同披露パーティー

11月29日（木）、本学薬学系研究科と農学生命科学研究科にそれぞれ設置された東京大学生物機能制御化合物ライブラリー機構と文部科学省ターゲットタンパク研究プログラム事務局の合同開設報告会・合同披露パーティーが薬学系総合研究棟で約70名の関係者を集め開催されました。

同機構と事務局が関わるターゲットタンパク研究プログラムは、昨年度まで5年間の文部科学省タンパク3000プロジェクトで整備された成果・基盤を用いて、より高難度かつ学術研究や産業振興に重要なタンパク質の構造と機能の解析を目指し本年7月より5年間の予定で文部科学省が開始したプログラムで、競争的資金制度により全体で43課題が採択され、本学からも長野哲雄化合物ライブラリー機構長をはじめ、医学・薬学・農学・生命科学などの分野から8名の代表研究者が、また20名以上の分担研究者が学部横断的に参加しています。プログラム事務局はタンパク3000プロジェクトに引き続き農学生命科学研究科が受託しています。

開設報告会では柴崎正勝薬学系研究科長、生源寺真一農学生命科学研究科長、松尾淳文部科学省ライフサイエンス課生命科学専門官のご挨拶の後、長野機構長より化合物ライブラリー機構の、また大野美恵事務局長よりプログラム事務局の説明がありました。

引き続き開かれた合同披露パーティーでは、小宮山宏本学総長、菱山豊文部科学省ライフサイエンス課長、別

府輝彦本学名誉教授（同プログラム推進委員会委員長）、竹中登一アステラス製薬代表取締役共同会長、桐野豊本学前副学長（同プログラム推進委員）よりご挨拶・激励があり、同プログラムと新たに設置された化合物ライブラリー機構、プログラム事務局に寄せられる関心と期待の高さが窺われるパーティーとなりました。開設報告会に先立って、農学生命科学研究棟と薬学部本館には生源寺研究科長、柴崎研究科長、菱山課長らの手により事務局と機構の看板が掲げられました。



ターゲットタンパク研究プログラム事務局看板架設
（右：生源寺農学生命科学研究科長、
左：菱山文部科学省ライフサイエンス課長）



生物機能制御化合物ライブラリー機構看板序幕
（右：菱山文部科学省ライフサイエンス課長、
左：柴崎薬学系研究科長）



小宮山総長の挨拶

平成19年11月1日現在 大学院学生・研究生・外国人研究生数調

研究科等名	種別	在籍者												在籍者のうち外国人学生(再掲)						在籍者のうち休学者(再掲)						大学院外国人研究生		大学院研究生		特別研究生												
		修士及び専門職学位課程						博士課程						修士(専門職学位)課程			博士課程			計	男	女	計	男	女	計	男	女														
		19年度		18年度		17年度		19年度		18年度		17年度		16年度		計	男	女	計										男	女												
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女																											
人文社会学系	入進学年度	60	53	81	47	42	28	183	128	311	62	46	67	35	59	42	160	100	348	223	571	882	12	25	34	41	112	9	110	78	206	23	39	62	4	4	8	0	0			
	性別	51	41	42	42	12	2	105	85	190	28	19	19	25	16	24	32	51	95	119	214	404	2	13	8	22	45	9	3	28	48	8	15	23	8	5	13	1	0	1		
教育学系	入進学年度	10	12	9	14	2	1	21	27	48	10	11	17	18	17	6	20	13	64	48	112	160	10	19	14	21	64	0	0	9	7	16	15	5	20	0	0	0	0	2	2	
	性別	50	14	48	9	4	0	102	23	125	21	10	22	5	28	2	49	8	120	25	145	270	6	10	10	4	2	6	0	50	4	60	1	0	1	2	0	2	0	0	0	
経済学系	入進学年度	165	93	146	102	49	35	360	230	590	99	60	104	55	90	56	170	161	463	332	795	1,385	23	33	53	80	189	31	19	125	107	282	30	38	68	11	6	17	8	2	10	
	性別	262	70	283	78	22	9	567	157	724	153	31	153	29	171	37	72	17	549	114	663	1,387	6	8	22	9	45	8	3	14	5	30	6	2	8	10	0	10	5	3	8	
理学系	入進学年度	867	113	807	116	57	13	1,731	242	1,973	225	47	220	42	266	41	109	35	820	165	985	2,958	188	78	258	83	607	31	6	38	15	90	63	30	93	18	2	20	8	2	10	
	性別	202	114	203	90	9	4	414	208	622	98	46	101	40	85	40	38	17	322	143	465	1,087	14	21	54	46	135	12	11	14	5	42	20	13	33	10	5	15	10	4	14	
工学系	入進学年度	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	性別	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
農学生命科学系	入進学年度	14	43	18	48	8	9	40	100	140	16	20	12	33	14	27	4	13	46	93	139	279	5	24	13	11	53	2	9	3	22	36	10	9	19	1	0	1	2	2	2	
	性別	11	8	10	8	0	2	21	18	39	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	39	1	3	-	4	1	1	-	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
医学系	入進学年度	62	36	58	33	3	2	123	71	194	46	5	44	11	34	13	5	1	129	30	159	353	4	4	8	5	21	2	3	2	1	8	3	3	6	2	1	3	6	1	7	
	性別	43	1	43	1	7	1	93	3	96	16	1	16	2	17	0	6	1	55	4	59	155	7	2	11	0	20	0	0	0	1	1	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0
新領域創成科学研究系	入進学年度	356	100	323	91	11	6	690	197	887	120	37	106	34	101	29	27	21	354	121	475	1,362	48	29	53	19	149	7	4	17	16	44	14	5	19	4	2	6	0	0	0	
	性別	173	13	199	12	18	2	390	27	417	52	3	60	6	59	7	13	3	184	19	203	620	52	12	39	12	115	6	0	9	1	16	19	3	22	0	0	4	1	5		
学際情報系	入進学年度	37	35	44	35	13	8	94	78	172	20	16	22	11	17	7	21	13	80	47	127	299	6	23	11	10	50	2	2	12	13	29	15	24	39	0	0	0	0	0	0	
	性別	66	34	72	30	20	3	158	67	225	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	225	9	6	-	-	15	3	0	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
公共政策学系	入進学年度	2,363	746	2,314	726	257	122	4,934	1,594	6,528	1,089	422	1,107	406	1,135	386	902	551	4,233	1,765	5,998	12,526	388	304	629	412	1,733	126	70	480	348	1,024	236	192	428	73	27	100	60	20	80	
	性別	1,291	158	2,621	1,253	76	62	629	345	974	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	974	16	9	-	-	25	10	10	-	-	20	-	-	8	4	12	14	11	25	

備考 1. 専門職学位課程は、() 書きで示し外数である。
 2. 農学生命科学研究科、医学系研究科の下段学生数は、平成15年度以前の入学数を示し、外数である。
 3. 大学院研究生、特別研究生欄の()内は、外国人を示し内数である。
 4. 外国人学生には在日外国人を含む。
 5. 教育学研究科の大学院科目等履修生(18人)
 6. 法学政治学研究科(法曹養成)の大学院科目等履修生(9人)
 7. 薬学研究科の大学院科目等履修生(54人)
 8. 公共政策学教育部の大学院科目等履修生(6人)
 9. 情報学系教育部研究生(147人)

INTERVIEW

生命科学教育支援ネットワーク

ネットワーク長 福田 裕穂 教授 (理学系研究科)

今ご紹介するのは、生命科学教育支援ネットワーク長、福田裕穂先生です。

生命科学教育支援ネットワークは、浅島前ネットワーク長(現理事・副学長)のもと平成17年10月に発足しました。福田先生は、同ネットワークの設立準備段階から中心メンバーとして活動されており、平成19年4月にネットワーク長に就任されました。同ネットワークには、2人の専属の特任助教が支援活動を行っており、駒場キャンパス17号館にネットワークのオフィスを置いています。

Q ネットワーク発足の経緯は?

福田 前ネットワーク長の浅島先生ら4人の先生方と、学部を超えて生命科学系の教育と研究の連携を考え始め、桐野元副学長の賛同も得て、生命科学系の学部長や評議員に各部局1名ずつのメンバーを選出いただき、懇談会を開催したのが始まりです。



懇談会では、まず学内を知ろうということで、生命科学系や研究所の持ち回りで会議を開き、問題点等を議論しました。そうした議論の中で、教養教育や大学院教育について課題が山積している状況を確認しました。同時に東京大学の生命科学を学内外に広く伝えるために、「東京大学の生命科学」シンポジウムを有志で開催しました。その後、懇談会を平成17年10月に生命科学教育支援ネットワークに発展させたわけです。

Q ネットワークとしてまず取り組んだ活動は?

福田 部局横断の連携と緊急性の高い問題に取り組むことがネットワークに求められ、まず、緊急性の高い教養学部の生命科学教科書作成に取り組みました。これは、いわゆる平成18年問題と呼ばれていた高等学校の新学習指導要領による卒業生を初めて受け入れるための方策でもありました。特に緊急であったのは「生命科学」が必修となった理科一類向けの教科書でした。そこで、まずこの教科書づくりに着手しました。

できあがった教科書は、東京大学だけでなく、かなりの数の大学の教科書として使用されています。この教科書により、講師間の教育内容に差の少ない統一的な講義が行なわれ、進学振り分けの点数上もフェアになったのではないかと思います。また、この教科書はかなりの売上を記録し、出版社の在庫がなくなった際にはAMAZONで古本にもかかわらず、定価の数倍の値段もつけていました。

Q ネットワークとしての現在までの主な活動は?

福田 生命科学系の研究者が学内に1500人以上いるのではないかとされていました。実際に生命科学教育支援ネットワークでは、学内の生命科学系研究者の調査を行い、情報を収集したところ、何らかの形で生命科学系である研究者が1600人以上いることが分かりました。同時に研究者のデータベースや情報交換の場を作ることを目指しています。「東京大学の生命科学」シンポジウムについても有志の開催から、生命科学教育支援ネットワーク主催として実施しております。

先ほどお話しした教科書に続き、昨年度は、理科二・三類向けの「生

総長室総括委員会とは?

近年の学問の急速な発展、法人化後の大学業務の多様化などを背景に、従来のような部局中心の教育研究では変化に対応するのが難しくなってきました。例えば、複数の部局にまたがる領域横断的な教育研究プロジェクトや、総長の強いリーダーシップの下で全学として推進すべき重要プロジェクト、また、大学として一元的に実施する必要がある環境安全などの業務は部局だけではできません。そのため、2004年度に室、本部、機構、ネットワークといった組織を総長室直轄で設置することになりました。総長室総括委員会は、それらの新しい組織をまとめる、全体の教授会のような役割を担っています。

命科学」教科書作りに取り組みました。こちらは理科一類の教科書をベースに1年間で履修するだけの情報量を組み込んだ教科書としました。現在、この教科書を使って理科二・三類の学生は、生命科学を学んでいるわけです。また、理科一類の教科書の改定作業にも取り組んでいます。

さらに文系の「生命科学」教科書を来年の春には完成する予定で進めています。この教科書では、「ヒト」を中心に、病気も含めて書いています。基礎的な知識と同時に、生命倫理やQOLなど社会科学としての生命科学についても言及しています。したがって、「生命科学」の全体という意味では、実は理系の人にも読んでほしい内容になっています。



Q ネットワークとしての今後の活動や目標は?

福田 教科書、シンポジウム、学内の連携という三本柱で考えています。教科書は、常に改訂が必要ですし、生命科学を構造化することも求められています。画像データなどを付加することも必要だと考えています。

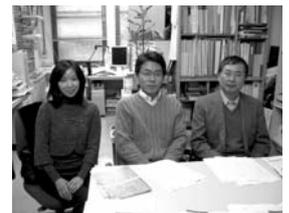
シンポジウムでは、東京大学の生命科学を広く伝えることも必要ですし、アーカイブ化することも行なっていきますし、学生の大学院進学の手助けとなることも考えています。次回のシンポジウムは、平成20年4月19日(土)に開催する予定です。

学内の連携という面では、先ほども触れましたが東京大学の生命科学系研究者のデータベース化や情報交換の場の提供を行ないたいと考えています。

究極の目標としては、東京大学の生命科学研究が「世界一」となれるように、また、ノーベル賞を取るような学生を輩出するように、教育・研究環境を整えることです。

(インタビューア: 蔭山・鈴木)

写真右から、福田ネットワーク長、辻特任助教、小沼特任助教



問い合わせ先: 本部研究機構等支援グループ (内線21387)
総長室総括委員会HP: <http://cirp.u.tokyo.ac.jp>

第3期東京大学アントレプレナー道場 最終発表審査会報告

大激戦の中、最優秀賞、優秀賞決まる



(左)最優秀賞を受賞したカイゴプラクティックチームのプレゼンの様子(左から神永拓さん、吉田エリカさん、山田 肇さん)、(右)審査委員のみなさん(左から山本東京大学TLO社長、藤田産学連携本部長(審査委員長)、高井日本MITエンタープライズ・フォーラム副理事長、郷治UTECS社長)

10月21日(日)、経済学研究科棟地下1階大教室にて、第3期東京大学アントレプレナー道場(以下アントレ道場)最終審査発表審査会が開催されました。最初に各務茂夫産学連携本部事業化推進部長より、これまでの経過と挨拶がありました。その後、各チーム15分のプレゼンが行われ、審査委員からの質疑応答がありました。審査委員は、藤田隆史産学連携本部長(審査委員長)、郷治友孝UTECS社長、山本貴史東京大学TLO社長、高井正美日本MITエンタープライズ・フォーラム副理事長の4名です。

今年は、研究職の女性チーム(Lily)、日本、台湾、韓国混合チーム(3 go K)などバラエティー豊かなチームが目立ちました。またアントレ道場に1人で参加して、知り合った仲間とチームを組んだ人が多かったようです。

第3期アントレ道場は、4月の初級コース(勉強会)に始まり、7月の中級コース(演習とセミナー)を経て、上級コース(メンタリングと合宿)と約半年間のプログラムでした。

最終発表審査会の参加チームは下記のとおりです。

【最優秀賞】『自由に歩く×自由な人生「ひざらっくん」』

カイゴプラクティック、代表：情報理工学系研究科博士課程2年神永 拓さん、他計3名

【優秀賞】『チタン酸化物を用いた太陽電池事業』

ケミカルテット、代表：工学系研究科修士課程1年吉川淳史さん、他計4名

【優秀賞】『働く女性が産みたくなる環境を！』

Postpartum Care Center 24』

3 go K、代表：農学生命科学研究科ポスドク川原井晋平さん、他計4名

『中高生の研究体験プロジェクト～科学の現場をあなたに』

インタープリター(総合文化研究科・理学系研究科、計3名)

『シックハウス症候群予防/症状軽減のための室内環境

改善事業』ワックスアプリケーションズ(理学部・教育学部・経済学部・工学系研究科、計4名)

『女性サイエンティストに特化したSNS事業』

Lily(新領域創成科学研究科・理学系研究科、計2名)

第9回科学技術交流フォーラム開催

160名を超える参加者に活気あふれる

10月30日(火)13時半より、東京大学山上会館2階大会議室にて、第9回科学技術交流フォーラム「大規模太陽電池の技術開発及び基礎技術の波及効果」が開催されました。

最初に司会の眞峯隆義特任教授より挨拶があり、続いて藤田隆史産学連携本部長の開会挨拶がありました。その後「太陽光発電の現状と将来」をテーマに佐賀達男シャープ(株)ソーラーシステム事業本部副本部長兼次世代要素技術開発センター所長より講演がありました。

その後の講演内容は下記のとおりです。

「CO2排出削減シナリオと太陽光発電」

藤井康正 准教授(大学院新領域創成科学研究科)

「太陽光発電の技術的・政策的普及支援策」

浅野浩志 教授(大学院工学系研究科)

「太陽電池用シリコン精製プロセスの新展開とその物理化学」森田一樹 教授(生産技術研究所)

「メゾプラズマCVDによるSi厚膜の高速堆積」

吉田豊信 教授(大学院工学系研究科)

「太陽電池の極限高効率化とシリコンフォトリクス」

和田一実 教授(大学院工学系研究科)

「次世代太陽光発電としての色素増感太陽電池の展望」

瀬川浩司 教授(先端科学技術研究センター)

質疑応答では、実際に家庭用太陽電池を使用されている参加者から具体的な質問も出ました。「太陽電池は価格が安くなればもっと普及すると思うので、安価になるように努力してほしい」という要望に、会場からうなずく姿も見られました。

18時より山上会館地階食堂で開催された交流会では、産業界と大学側が活発な意見交換を行い、有意義なものとなりました。



(左)乾杯の挨拶をする佐賀達男シャープ(株)ソーラーシステム事業本部副本部長兼次世代要素技術開発センター所長、(右上)交流会の様子、(右下)フォーラム会場の様子

連絡先：産学連携本部(本部産学連携グループ)

電話：内線22857(外線03-5841-2857)

ホームページ：<http://www.ducr.u-tokyo.ac.jp/>

※「東京大学トップページ」上で「産学連携本部」をクリック



現在東大基金のホームページでは、「寄附者インタビュー」のコーナーで寄附者の方々のお声を掲載しております。みなさまが東大への想い、基金への想いを率直に語ってくださっており、大変興味深い内容になっています。

そんな中、連載の第8回は、寄附者でもあり大学院農学生命科学研究科・農学部の教授でもある森田茂紀先生にお話を伺いに行きまして。

父の想いを受け継いで

—ご寄附いただいた経緯は？

2年前に亡くなった父の遺産を整理した際に、父の想いを何か記念として形に残すことは出来ないかと考えたのが最初のきっかけでした。父は元々寄附の意識が高く、国境なき医師団などに寄附を行っていましたので、その父の考え方に沿ったものかと思いました。

そこで、父は生前にタイで車部品会社の関連会社の社長をしていたことがありましたので、私が昨年IPoS (Intensive Program on Sustainability) のサマワークショップでタイに行った機会に、現社長を通して50万円を寄附しました。タイの従業員向けの奨学金として使ってもらうためです。



その後東大基金から寄附の案内が届き、妻の賛成があったので、父もきつと賛成してくれるだろうと東大基金へも寄附をしました。こちらは運営費交付金や科研費などでは出来ない事に自由に使って欲しいと思って、用途や目的を特に限らずに寄附しました。

—教職員の寄附についてはどう思われますか？

運営費交付金が年々減られる中、大学が自助努力をするのは健全なことだと思います。

また、米国では年収の約2%を寄附するような文化がありますが、私の父も収入の数%を寄附をするという考え方をしていましたので、私もその影響を受け、自然な気持ちで寄附をしました。学生として、また研究者として、東大に育ててもらった恩返しという部分もあるかもしれないですね。

—今後東大基金(又は渉外本部)に期待されることは？

環境整備など、研究に比べてついつい後回しになってしまうところにお金を使える基金は、今後の東大にとって必要な枠組みだと思います。

そのためには教職員に見える活動を続けていくと共に、何に対して東大基金が使われたのか、またどういうメリットがあるのか定期的に報告することが必要になってくるのではないのでしょうか。

米国の寄附文化

インタビュー中、森田先生のお話の中に出てきましたが、実際米国ではどのぐらいの人が寄附をするのか、なんとなく沢山するイメージはあるもののどの程度なのか、調べてみました。

- ①89%の世帯が寄附をしている。
- ②平均寄附額は年間1,620ドル。
- ③平均寄附額は年収の3.1%。
- ④ボランティアを行う世帯の平均寄附額は2,295ドル。
- ⑤寄附の依頼をされた世帯は57%。
- ⑥その中で寄附をした世帯は61%。

(出典: "Giving and Volunteering in the United States", INDEPENDENT SECTOR, 2001)

比べて日本はどうでしょうか。総務省統計局が発表している国民生活白書(平成16年版)を見てみましょう。

- ・平均寄附金は年間2,936円。
- ・寄附の平均頻度は年間1.30回。

ご覧いただいておりますように、米国と日本ではまだまだ差があります。渉外活動もなかなか米国の大学のようには行きません。しかしこの連載も含め、一步一步、地道に東大基金についてお話させていただくことが未来の東大のためとなると思い、今後も精一杯活動を進めて参ります。

最後になりましたが、お忙しい中お時間をいただき快くインタビューに応じてくださった森田先生に深く感謝申し上げます。(鈴木)

森田先生は現在、大学院農学生命科学研究科の産学官民連携型農学生命科学研究インキュベータ機構(通称アグリコクーン)から生まれた、「イネイネ・日本」プロジェクトの代表を務め、稲を原料とした国産バイオ燃料の研究を進めておられます。

<http://www.ineine-nippon.jp/>



基金最新情報

6,365件 11,930,354,480円

(内教職員 1,914件)

(11月30日現在申込)

教職員参加率 26.2%

連絡先: 渉外本部 鈴木

電話: 内線21744(外線03-5841-1744)

HP: <http://utf.u-tokyo.ac.jp/index.html>

※「東京大学トップページ」上で「東京大学基金」をクリック



ケータイからみた東大 ～東大ナビ通信 第2回～



東大ナビとは？

学内外に向け携帯電話を通じて教育イベント情報をお届けするサービスです。携帯サイトで学術俯瞰講義や公開講座、学内で開催される教育イベント情報を宣伝します。

加えて、QRコードや空メール送信によりメールアドレスを登録した皆様の携帯電話に、最新の教育イベント情報を、メールマガジンで定期的にお届けします。学内教育イベントの情報収集・広報活動の媒体としてご利用頂けます。

是非、東大ナビをご活用ください！



こんな場所でも東大ナビ！

東大ナビでは、学内外の皆様にサービスを知っていただくため、学内外で様々な活動を進めております。

会員限定！生協でクーポン配布

11月よりメルマガ会員を対象に、駒場・本郷の大学生協で、期日限定でサンプルを配布しております。

大学生協より配布物をご提供頂き、メルマガ会員限定でクーポンをお配りしています。サンプル配布は隔週で駒場・本郷の生協前でしており、クーポンを見せて頂いた方に、お茶やお菓子、文房具を無料でお配りしています。

そして、なんと来年からは、いつでもメルマガ会員はサンプルを受け取れるようになる予定です！乞うご期待ください！

本郷キャンパス周辺地下鉄に駅広告！



12月より、本郷キャンパスに通学・通勤される皆様にご利用の地下鉄駅に東大ナビの広告が掲示されます！
通りがかりに是非ご覧下さい。

■掲載駅

- ・東京メロ 丸の内線
本郷三丁目駅
- ・東京メロ 南北線
東大前駅
- ・都営地下鉄 大江戸線
本郷三丁目駅

(上)駒場キャンパスでのサンプル配布の様子
メルマガ会員には開催日時をお知らせしています！
(左)地下鉄広告のポスター



イベント情報を受けたい方

mail@utnav.jpに空メール送信！

- この記事のQRコードから
 - mail@utnav.jp宛てにメール送信
 - 携帯サイトutnav.jpにアクセスしてメルマガ登録ページへ
- ※携帯電話のみのサービスです



返信メールから登録画面に入力！

- ご所属
- 性別・年齢など



登録完了！

- 登録確認メールが届きます
- 隔週でメルマガ・お得なクーポンGET!



イベントを宣伝したい方

教育企画室TREEオフィスまで！

- 内線:27823(重田)
- メール:info@tree.ep.u-tokyo.ac.jp
- オフィス;本郷キャンパス
第二本部棟401号室

ワタシのオシゴト 第22回

Rings around the UT

地震研究所 技術職員

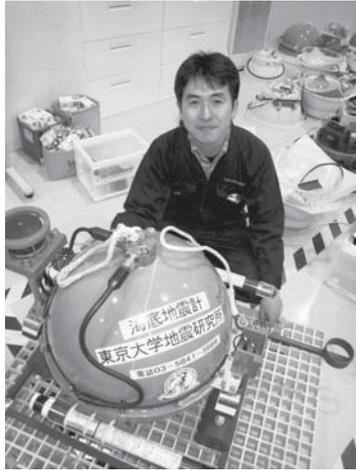
八木 健夫さん

ヘリコプターでクルージング

海でおこなう地震の観測業務を担当しています。観測には深い海でも地震を記録できる海底地震計を使います。この海底地震計を組み立て、現場に設置し、観測終了後に回収するのが私の仕事です。

観測現場までの移動と設置作業には船だけでなくヘリコプターも利用します。ヘリコプターで観測現場までフライトし、海面から50m上空でホバリング、そこから海底地震計を海に投入、海底に設置します！ヘリコプターの中で設置準備を進めるため、搭乗していることを楽しむ時間はほとんどありません。

それでもふと眼下に広がる大海原を見ると感無量！！海底地震計を黙々と組み上げた苦労も吹き飛びます。設置作業を終えてヘリポートに帰投するさいにも、稀にすばらしい光景を目の当たりにします。最近では、那智の滝の大瀑布を上空から見て超感動！！地震研の職員でよかったと思った数少ない(?)ひとときです。



チタン製の海底地震計です



ヘリは操縦できませんが、フォークリフトならバッチリ

得意ワザ:ひとりコント

自分の性格:ほのほの系

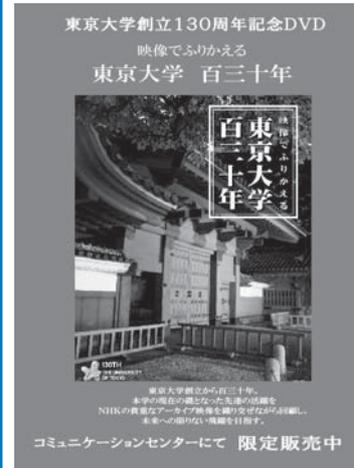
次回執筆者のご指名:奥雄一さん

次回執筆者との関係:飲み仲間

一言紹介:くだい話にもつきあってくれる心優しい方です。

コミュニケーションセンターだより No.42

■新商品のご紹介



東京大学130年の歴史をNHKの貴重なアーカイブ映像で綴った逸品です。他では見られない貴重な映像が満載です。130周年の記念に東大の歴史をふりかえってみてはいかがでしょうか。コミュニケーションセンターでの限定販売です。

●価格:2,079円(税込)

■「東京大学百三十年DVD」

■ホームカミングデー・駒場祭出店結果報告

今年も両イベント出店しました！

ホームカミングデーでは雨の中、沢山のお客様が御酒の試飲会にいらして下さいました。

駒場祭では、わかりにくい場所だったにも関わらずテントを探してきて下さるお客様も多く、大変嬉しい2日間になりました。

<ホームカミングデー 売上ベスト5>

1位	御酒有料試飲
2位	ボールペン
3位	御酒ミニボトル
4位	チャーム付ストラップ
5位	光触媒シート



<駒場祭 売上ベスト5>

1位	蓮香(あぶらとり紙)
2位	ボールペン
3位	蓮香(香水)
4位	光触媒シート
5位	天体クリアファイル



※コミュニケーションセンターは、12月28日(金)から1月6日(金)まで、冬季休業とさせていただきます。

(担当:コミュニケーションセンター 吉岡)



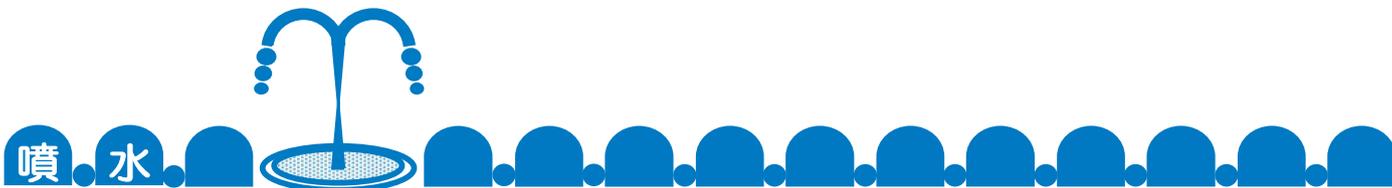
The University of Tokyo

東京大学コミュニケーションセンター
The University of Tokyo
Communication Center

OPEN: 月曜～土曜 10:30～18:30

電話: 03-5841-1039

http://www.utcc.pr.u-tokyo.ac.jp/



教育学部附属中等教育学校、
全日本学生音楽コンクール東京大会で第1位

11月1日（木）に行われた第61回全日本学生音楽コンクール東京大会、中学校の部（フルート部門）で本校2年生の林広真君が第1位に選ばれた。このコンクールは毎日新聞社が主催しているもので、千駄ヶ谷の津田ホールで行われ、予選を通過した12人が競演した。

林君が演奏したのはモーツァルトの「アンダンテ」。林君は5歳の時にフルートを始めた。フルートは他の楽器にはないきれいな音が出るので飽きないで続けられたと言う。テクニックを究めれば速い曲も演奏できるのが楽しいし、色々な音が出て表情が出るのが魅力。好きな曲は尾高尚忠の「フルート協奏曲」。「若い人はクラシックをあまり聴かないけれど、色々な魅力があるので楽器を演奏する人が増え、クラシックへの関心が高まると良いと思う」と語った。林君は11月29日（木）に横浜みなとみらいホールで行われる全国大会の出場が決まっている。



演奏中の林君

教育学部附属中等教育学校、詩のまち前橋若い芽
のポエムで最優秀賞受賞

第11回「詩のまち前橋若い芽のポエム」（応募作品数1万9685編）の「高校生の部」で本校4年の奥山愛さんが、美棹賞（最優秀賞金賞）を受賞した。あわせて、東京大学教育学部附属中等教育学校が学校賞を受賞した。

この催しは、1996年に、前橋市で「世界詩人会議日本大会」が開催されたのを機に、1997年から始まった。

奥山さんの詩は「独りぼっち独人（ひとりうど）」というタイトルで、はじめ教室で書きはじめて、自宅で仕上げたそうである。「人間は、まわりに人がたくさんいても、結局はひとりなのだ」と感じた時の心境を詩にした。

審査委員長には、「人間というものの、意味を書いた詩である」と講評された。また、奥山さんが中学3年時の国語の教科書で作品を読んで気に入っていた、詩人の新川和江さんも、審査員として会場にいた。その新川さんの朗読の後に、自身の詩を朗読して、緊張したと話してくれた。

萩原朔太郎の故郷で、授賞式に臨んだ奥山さんの今後を期待したい。

INFORMATION

シンポジウム・講演会

シンポジウム・講演会

大学院工学系研究科・工学部

第3回ホロニックエネルギーシンポジウム— 「分散型エネルギー資源の系統貢献とその実 現方法」—開催のお知らせ

ホロニック・エネルギーシステム学（東京ガス）寄付講座は、2008年1月9日（水）、本学21世紀COEプログラム「機械システム・イノベーション」、独立行政法人産業技術総合研究所との共催で、第3回シンポジウムを開催いたします。

このシンポジウムは、東京ガス株式会社の寄付講座として2005年4月に機械工学専攻に設立された当講座が、2007年度までの設置期間中毎年1回、将来のエネルギーのあり方について広く世の中に情報発信を行う場として企画するものであります。

今回は「分散型エネルギー資源の系統貢献とその実現方法」と題し、講演とパネル討論等を企画いたしました。多数のご参加をお待ちいたします。

日時：2008年1月9日（水）13:00～17:10

場所：武田先端知ビル5階 武田ホール

参加費：シンポジウム 無料、技術交流会 3,000円

申込先：（事前登録制）

<http://www.hes.t.u-tokyo.ac.jp/topics/sympo2007.html>

問合せ先：工学系研究科機械工学専攻 坂東 茂

TEL: 03-5841-1680

e-mail: bando@mech.t.u-tokyo.ac.jp

プログラム

（プログラムは変更になる場合があります。）

司会進行：鹿園直毅（機械工学専攻准教授）

13:00～13:10 開会あいさつ

笠木伸英（機械工学専攻教授）

13:10～13:50 講演

「分散型エネルギー資源の統合制御と系統貢献」

浅野浩志（機械工学専攻教授）

13:50～14:20 講演

「電力系統が分散型資源を嫌う理由—エネルギーシステムの視点から—」

山地憲治（電気工学専攻教授）

14:20～15:00 講演

「マイクログリッド向けバイオガスエンジン発電機の制御」

金子成彦（機械工学専攻教授）

15:00～15:20 休憩

15:20～16:00 講演

「マイクログリッド連系時の系統周波数制御および配電電圧制御への貢献」

横山明彦（電気工学専攻教授）

16:00～17:00 パネル討論

「分散型エネルギー資源の系統貢献とその実現方法」

コーディネーター：笠木伸英

パネリスト：金子成彦、横山明彦、浅野浩志、徳本勉（東京ガス株式会社）

17:00～17:10 閉会あいさつ

大和田野芳郎（産業技術総合研究所エネルギー技術研究部門長）

17:20～19:00 技術交流会

主催：ホロニック・エネルギーシステム学（東京ガス）
寄付講座

共催：東京大学21世紀COE「機械システム・イノベーション」、（独）産業技術総合研究所

協賛：エネルギー・資源学会

シンポジウム・講演会

トランスレーショナル・リサーチ・イニシアティブ

先端医療開発研究シンポジウム ～未来の科学が今ここに姿を現し、豊かな暮らしを実現する

本学では7月に総長室統括委員会のもと、先端医療の基礎から応用、実践にいたる研究開発を効率的に進めることを目的に、メディカルキューブ（トランスレーショナル・リサーチ・イニシアティブ）を発足させました。メディカルキューブ（トランスレーショナル・リサーチ・イニシアティブ）には、「ナノバイオ・インテグレーション研究拠点」、「システム疾患生命科学による先端医療技術開発拠点」、「橋渡し研究支援推進プログラム」の各拠点・プログラムが所属しており、それぞれが、次世代の先端医療技術の研究開発を進めています。本シンポジウムでは、メディカルキューブ（トランスレーショナル・リサーチ・イニシアティブ）の3拠点・プログラムと本学医学部附属病院の「22世紀医療センター」が合同で開催し、それぞれの拠点・プログラムの研究者が集い、最先端の医療開発の現状と成果について発表し、課題の

共有と相互の発展を図ります。

日時：平成 20 年 1 月 22 日（火）13:30～18:00

会場：安田講堂

*講演会、展示会共に参加費は無料です。

プログラム

1 開会の挨拶

13:30～13:40 小宮山 宏（本学総長）

2 メディカル・キューブ（トランスレーショナル・リサーチ・イニシアティブ）講演

13:40～14:00

木村 廣道（薬学系研究科客員教授）

「東京大学メディカル・キューブが目指すもの」

14:00～14:40

◆ナノバイオ・インテグレーション研究拠点

長棟 輝行（工学系研究科バイオエンジニアリング専攻教授）

「細胞膜修飾剤を用いた細胞治療技術の開発」

石原 一彦（工学系研究科マテリアル工学専攻教授）

「ナノ医工学による超高寿命型人工関節の創製」

14:40～15:20

◆システム疾患生命科学による先端医療技術開発拠点（振興調整費研究ユニット）

児玉 龍彦（先端科学技術研究センター教授）

「ゲノム抗体創薬からイメージング創薬へ」

佐久間 一郎（工学系研究科精密機械工学専攻教授）

「低侵襲診断治療技術の開発」

15:20～16:20

休憩・ポスター展示

16:20～17:00

◆先端医療の開発支援拠点形成と実践（橋渡し研究支援推進プログラム）

山下 直秀（医科学研究所附属病院病院長）

「TR シーズと支援体制について」

藤堂 具紀（医学部脳神経外科講師）

「がんのウイルス療法の開発」

17:00～17:20

◆22世紀医療センター

山内 敏正（医学系研究科統合的分子代謝疾患科学講座准教授）

「分子から疾患へ基礎研究と臨床の統合—大学発の創薬の実現に向けて—」

17:20～18:00

3 先端医療開発研究への期待（敬称略）

◆日本学術会議 会長 金澤 一郎

◆（独）科学技術振興機構 理事長 北澤 宏一

◆文部科学省 研究振興局長 徳永 保

◆厚生労働省 医政局長 外口 崇

4 閉会のご挨拶

平尾 公彦 本学副学長、メディカル・キューブ（トランスレーショナル・リサーチ・イニシアティブ）機構長

*18:00～ シンポジウム終了後、山上会館にて懇親会（懇親会費：3,000 円、学生無料）

申込先：本学総長室総括委員会 メディカル・キューブ（トランスレーショナル・リサーチ・イニシアティブ）先端医療開発研究シンポジウム事務局

URL:<http://www.u-tokyo.ac.jp/>（本学ホームページ）の主な EVENT INFO より、お申し込みください。

お知らせ

お知らせ

大学院総合文化研究科・教養学部

「教養学部報」第 506（11 月 7 日）号の発行
——教員による、学生のための学内新聞——

「教養学部報」は、教養学部の正門傍、掲示板前、国際交流棟ロビー、15 号館ロビー、図書館ロビー、生協書籍部、保健センター駒場支所で無料配布しています。バックナンバーもあります。

第 506 号の内容は以下のとおりとなっていますので、ぜひご覧ください。

本村凌二：体験考古学の試み

ヘルマン・ゴチェフスキ：特別展『Musica ex Machina——機械じかけの音楽』駒場博物館・10 月 20 日（土）～12 月 2 日（日）

川中子義勝：他者裡に蘇る事——三谷隆正

兵頭俊夫：高木佐知夫先生を悼む

稲葉 寿：ジェンダーと人口再生産

石浦章一：生命科学構造化センターの仕事

〈本の棚〉

川島 真：齋藤希史著『漢文脈と近代日本——もう一つのことばの世界』

山内昌之：渡會公治著『上手なからだの使い方——未病の治をめざして』

〈時に沿って〉

小林俊行：創造力の源泉、数学

佐藤 健：すべては「知ること」から

佐藤 光：木洩れ日を浴びながら

お知らせ

大学院総合文化研究科・教養学部

「教養学部報」第507（12月5日）号の発行 ——教員による、学生のための学内新聞——

「教養学部報」は、教養学部の正門傍、掲示板前、学際交流棟ロビー、15号館ロビー、図書館ロビー、生協書籍部、保健センター駒場支所で無料配布しています。バックナンバーもあります。

第507号の内容は以下のとおりとなっていますので、ぜひご覧ください。

上野宗孝：Light Up!

星塾守之：クリスチャン・ボルタンスキーについて

清水 剛：〈学び方〉新シリーズ 経営学の学び方——超体験的組織論入門——

八田秀雄：東大OB明石顕選手世界陸上で活躍

増田 茂：「表面化学」という世界

〈本の棚〉

安西信一：ヘルマン・ゴチェフスキ編「東大駒場連続講義『知の遠近法（Perspectiva）』」

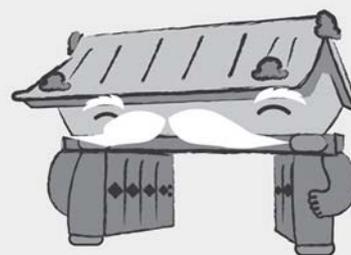
長谷川まゆ帆：池上俊一著『ヨーロッパ中世の宗教運動』
霊性の歴史とイマジネールの世界

〈時に沿って〉

清水晶子：駒場とトイレと私、時を超えて

坪井貴司：一期一会

宮島 謙：駒場という「馬場」で



お知らせ

人文社会系研究科グローバルCOEプログラム
「死生学の展開と組織化」

「生と死をめぐる映画上映会Ⅰ 『ひめゆり』」を開催

下記の要領で、映画『ひめゆり』の上映・監督講演を行います。『ひめゆり』は、柴田昌平監督が13年の歳月をかけ、「ひめゆり学徒隊」の生存者へのインタビューをまとめた、平成19年度（第5回）文化庁映画賞受賞のドキュメンタリー映画です。上映会後には柴田昌平監督の講演、本学教員との対談等が予定されています。ご興味のある方はぜひご参加ください。入場料無料、事前申し込みは不要です。

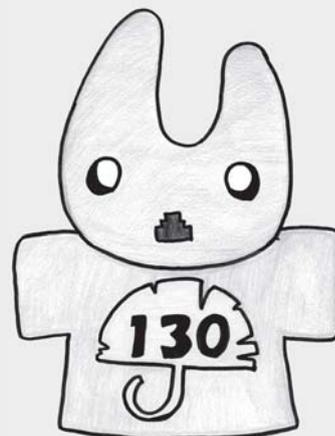
【日 時】2008年1月11日（金）17時～20時

【場 所】医学部 教育研究棟14階 鉄門記念講堂

【問い合わせ先】グローバルCOE研究室

03-5841-3736（TEL/FAX）

*映画に関する情報は <http://www.himeyuri.info/> をご覧ください。



お知らせ

本部学生支援グループ

年末年始の体育施設の使用及び受付について

運動会窓口受付業務は12月28日（金）から1月6日（日）まで休止します。

これに伴い、体育施設の使用及び受付は下表のとおり行います。

体育施設名	使用休止期間	予 約 受 付	
		対象期間	受付開始日
二食横／農学部 テニスコート ※1	12月28日（金） ～1月4日（金）	1月14日（月） ～1月16日（水）	1月7日（月）
農学部グラウンド		2月分	1月8日（火）
検見川総合運動場 ※2	12月28日（金） ～1月4日（金）		学内者 12月19日（水） 学外者 1月7日（月）
柏II ラグビー場	12月28日（金） ～1月6日（日）		1月7日（月）～
保健体育寮	12月26日（水） ～1月3日（木）		
二食地下プール	12月22日（土） ～1月6日（日）		
御殿下記念館 ※2	12月28日（金） ～1月6日（日）		運動部・Aクラブ優先予約 12月1日（土） Bクラブ第1順予約 1月1日（火） フリー予約 1月6日（日）
御殿下グラウンド ※3			※4

※1 1月5日（土）～1月13日（日）分の予約日は12月20日（水）となります。

※2 12月27日（木）は館内清掃を行うため、15時に閉館となります。

※3 年末年始の鍵の貸し借りは警備室で行います。なお、同期間は専有予約以外の方の利用はできません。

※4 御殿下記念館・グラウンドの予約はオンラインのみです。

問い合わせ先：本部学生支援グループ体育チーム（内線 22509 ～ 22511）

お知らせ

保健センター

年末年始の診療日程のお知らせ

年末年始は下記のとおり業務を行います。

	本郷支所	駒場支所	柏支所
12/25（火）	通常通り	午後休診	通常通り
12/26（水）			
12/27（木）			
12/28（金）	午後休診		午後休診
12/29（土）～2008 1/3（木）	休 診		
1/4（金）	午後休診		
1/7（月）	通常通り		

お知らせ

本部広報グループ

広報センター年末年始休館のお知らせ

今年もこのお知らせを掲載する時期となりました。今年一年間のご利用ありがとうございました。『学内広報』に掲載しました「龍岡門横丁」を切り抜いて持ってきてくださった方もありました。たくさんの皆様とお話しできた年になりました。

来年もどうぞよろしくお願いたします。

下記のとおり休館させていただきます。

12月28日（金）～1月6日（日）

*年始は1月7日（月）午前10時より開館いたします。

お知らせ

本部入試グループ

平成20年度入学者募集要項配付

平成20年度の本学の入学者募集要項が決定し、11月16日（金）から入学志願者に配付されている。

◆募集要項配付場所

「本郷地区」

正門、赤門、広報センター（龍岡門）、コミュニケーションセンター（赤門脇）、東大生協（安田講堂売店、書籍部）

「弥生地区」

農学部正門

「駒場地区」

教養学部正門、コミュニケーションプラザ北館1階生協購売部

※東京大学ホームページからも請求できる。

◆テレホンサービス

募集要項の請求方法（郵送）、出願状況（出願者数及び倍率）並びに追加合格の有無等について、テレホンサービス（電話番号：03-3818-9900）を行う。

募集人員、試験期日、試験場、合格発表日などは次のとおりである。

募集人員

募集人員（人）	前期日程（人）	後期日程（人）
文科一類	401	100
文科二類	353	
文科三類	469	
理科一類	1,108	
理科二類	532	
理科三類	90	
計	3,053	100

◆出願期間

平成20年1月28日（月）～平成20年2月6日（水）まで

◆試験日

前期日程 平成20年2月25日（月）・26日（火）

後期日程 平成20年3月13日（木）

◆試験場

前期日程

科 類	試験場
文科一類	東京大学 教養学部
文科二類	
文科三類	
理科一類	東京大学 法・文・経済・教育・薬・医・理・工・農の各学部
理科二類	
理科三類	

後期日程

科 類	試験場
全科類 （理科三類を除く）	東京大学 法学部

◆合格者発表

○第1段階選抜合格者発表

前期日程

平成20年2月13日（水）午後1時頃、本郷地区キャンパス内に合格者の大学入試センター試験「試験場コード」及び「受験番号」を掲示する。

後期日程

平成20年3月10日（月）午後1時頃、本郷地区キャンパス内に合格者の大学入試センター試験「試験場コード」及び「受験番号」を掲示するとともに、電子郵便（レタックス）により合格者には「合格通知書」を、また、不合格者には、「不合格通知書」を送付する。

○合格者発表

前期日程

平成20年3月10日（月）午後1時頃、本郷地区キャンパス内に合格者の第2次学力試験受験番号を掲示するとともに、合格者には電子郵便（レタックス）により「合

格通知書」を送付する。

後期日程

平成20年3月22日(土)午後1時頃、本郷地区キャンパス内に合格者の第2次学力試験受験番号を掲示するとともに、合格者には電子郵便(レタックス)により「合格通知書」を送付する。

お知らせ

本部入試グループ

平成20年度入試に伴う 臨時措置(本郷キャンパス)について

I 平成20年度大学入試センター試験及び第2次学力試験(前期日程)の実施に伴う入構制限等の臨時措置(本郷関係)について

平成20年度の大学入試センター試験(平成20年1月19日(土)、20日(日))及び第2次学力試験 前期日程(平成20年2月25日(月)、26日(火))の実施のため、次のとおり入構制限等の臨時措置をとることとする。

1. 授業の休止

(1)大学入試センター試験

平成20年1月18日(金)……………試験場準備のため、試験に使用する教室について、原則として午後の授業は休止する。

(2)第2次学力試験(前期日程)

平成20年2月22日(金)……………試験場準備のため、試験に使用する教室について、原則として午後の授業は休止する。

平成20年2月25日(月)、26日(火)……試験当日のため、授業は休止する。

2. 試験場区域

試験場区域を次のとおり設定する。

(1)本郷区域(本郷地区から本部棟・附属病院・第二食堂建物・環境安全研究センターを除く区域)

(2)農学部区域(弥生地区から地震研究所・農学部グラウンド・野球場を除く区域)

(3)ただし、大学入試センター試験にあっては、「(1)本郷区域」のみとし、(1)及び(2)の区域に通じる陸橋は封鎖する。

3. 入構制限等

(1)入構許可

試験当日は、「受験者」、「本学教職員」、「研究のために特に入構を必要とする本学学生・研究生」及び「特に入構を許可された者」は入構できるが、その他の者の試験

場区域への入構は禁止する。

なお、入・出構の際は、警備担当者の指示に従うこと。また、試験場区域においては、試験の妨げにならないよう静粛にすること。

(2)「身分証明書」の提示

入構に際しては、次のとおり「身分証明書等」を提示するものとする。

①「本学教職員」……………「身分証明書」

※「入試実施本部関係教職員」は、「入試統一腕章」を着用する。

②「研究のために特に入構を必要とする本学学生・研究生」……………「学生証・研究生証」

③「特に入構を許可された者」……………「入試特別入構証」

※「入試特別入構証」は、大学入試センター試験用及び第2次学力試験(前期日程)用の2種類とする。

4. 試験場区域への入・出構は、次によるものとする。

(1)本郷区域

①「本学教職員」、「研究のために特に入構を必要とする本学学生・研究生」及び「特に入構を許可された者」

正門、赤門、弥生門、薬学ゲート、理学部1号館と化学館裏の間、二食ゲート

②「受験者」

正門、弥生門、薬学ゲート、理学部1号館と化学館裏の間、二食ゲートただし、大学入試センター試験にあっては、二食ゲートは使用できない。なお、赤門からの入構は、正門の混雑時及び雨天、降雪時に限り中央実施本部の判断により行う。

(2)農学部区域

①「本学教職員」、「研究のために特に入構を必要とする本学学生・研究生」及び「特に入構を許可された者」

農正門及び南門

②「受験者」

農正門

(3)上記の各門及びゲート以外からの立ち入りを禁止する。

なお、龍岡門及び池之端門は平常通りとする。また、懐徳門と西片門は封鎖する。

備考

1. 報道関係者等

「報道関係者等」は、腕章による識別ではなく、広報委員長の発行する「入試特別入構証」により入構を認める。なお、報道関係者等への対応は広報委員会を通じて行う。

2. その他

(1)試験場区域への車両による入・出構は、原則として認めないが、やむを得ない事由のある者の入・出構は、薬学ゲート、二食ゲート及び弥生門、農正門とする。

但し、オートバイについては、エンジンを切った場合のみ入・出構を認める。

(2)附属病院の業務は平常通りとなっており、附属病院の

業務に関連して、試験場区域に入構する必要がある場合には、「教職員」については「身分証明書」、「学生・研究生」については「学生証・研究生証」、「その他の者」については「入試特別入構証」を必ず提示すること。

II 平成20年度第2次学力試験（後期日程）の実施に伴う入館制限等の臨時措置（本郷構内）について

第2次学力試験 後期日程（平成20年3月13日（木））の実施のため、次のとおり入館制限等の臨時措置をとることとする。

1. 授業の休止

第2次学力試験（後期日程）

平成20年3月12日（水）・・・試験場準備のため、試験に使用する教室について、原則として午後の授業は休止する。

平成20年3月13日（木）・・・試験当日のため、授業は休止する。

2. 試験場

法文1号館

3. 入館制限等

試験当日は、試験場を設定した当該建物への「受験者」及び「入試関係教職員」以外の立ち入りは原則として禁止する。

4. 試験場への入館

「受験者」及び「入試関係教職員」の出入口については、各建物の指定された場所とする。

備考

1. 報道関係者

報道関係者の入館及び構内での取材については、広報委員会を通じて行う。

III 平成20年度第2次学力試験合格発表（前期日程）の実施に伴う車両通行規制の臨時措置（本郷関係）について

平成20年度の第2次学力試験 前期日程合格発表（平成20年3月10日（月））の際、受験者等の安全確保のため、次のとおり通行規制の臨時措置をとることとする。

1. 規制区域

医学部本館前ロータリー～赤門～正門

2. 規制時間

11:00～15:00

3. 規制車両

自動車及びオートバイ（合格発表関係車両を除く）

4. 注意事項

上記2の規制時間帯以外でも、車両での通行の際は、受験者等の安全確保を第一に考え、通行すること。

お知らせ

本部入試グループ

平成20年度入試に伴う臨時措置（駒場関係）について

○平成20年度大学入試センター試験及び第2次学力試験（前期日程）の実施に伴う入構制限等の臨時措置（駒場関係）について

平成20年度の大学入試センター試験（平成20年1月19日（土）・20日（日））及び第2次学力試験前期日程（平成20年2月25日（月）・26日（火））の実施のため、次のとおり入構制限等の臨時措置をとることとする。

1. 授業の休止

(1)大学入試センター試験関係

平成20年1月18日（金）・・・試験場準備のため、原則として午後の授業は休止する。

(2)第2次学力試験（前期日程）関係

駒場キャンパスにおける授業ならびに学期末試験は終了しているので、この措置はとらない。

2. 試験場区域

試験場区域を別紙のとおり設定する。入試当日は黄・黒のロープによって、その境界を明示する。

3. 入構制限等

(1)入構許可

試験当日は、「受験者」、「本学教職員」、「研究のために特に入構を必要とする本学学生・研究生」及び「特に入構を許可された者」は入構できるが、その他の者の入構は禁止する。なお、試験場区域においては、試験の妨げにならないよう静粛にすること。

(2)「身分証明書」の提示

入構に際しては、次のとおり「身分証明書等」を提示するものとする。

①「本学教職員」・・・「身分証明書」

②「研究のために特に入構を必要とする本学学生・研究生」・・・「学生証・研究生証」

③「特に入構を許可された者」・・・「入試特別入構証」

(3)受験者の入・出構は、大学入試センター試験及び第2次学力試験（前期日程）とも、正門のみとする。

(4)「本学教職員」、「研究のために特に入構を必要とする

本学学生・研究生」及び「特に入構を許可された者」の入・出構は、正門（バレーコート協含む）及び坂下門横とする。

(5)入試当日、北門（野球場門）・西門・裏門・炊事門・梅林門は閉鎖する。

備考

1. 報道関係者等

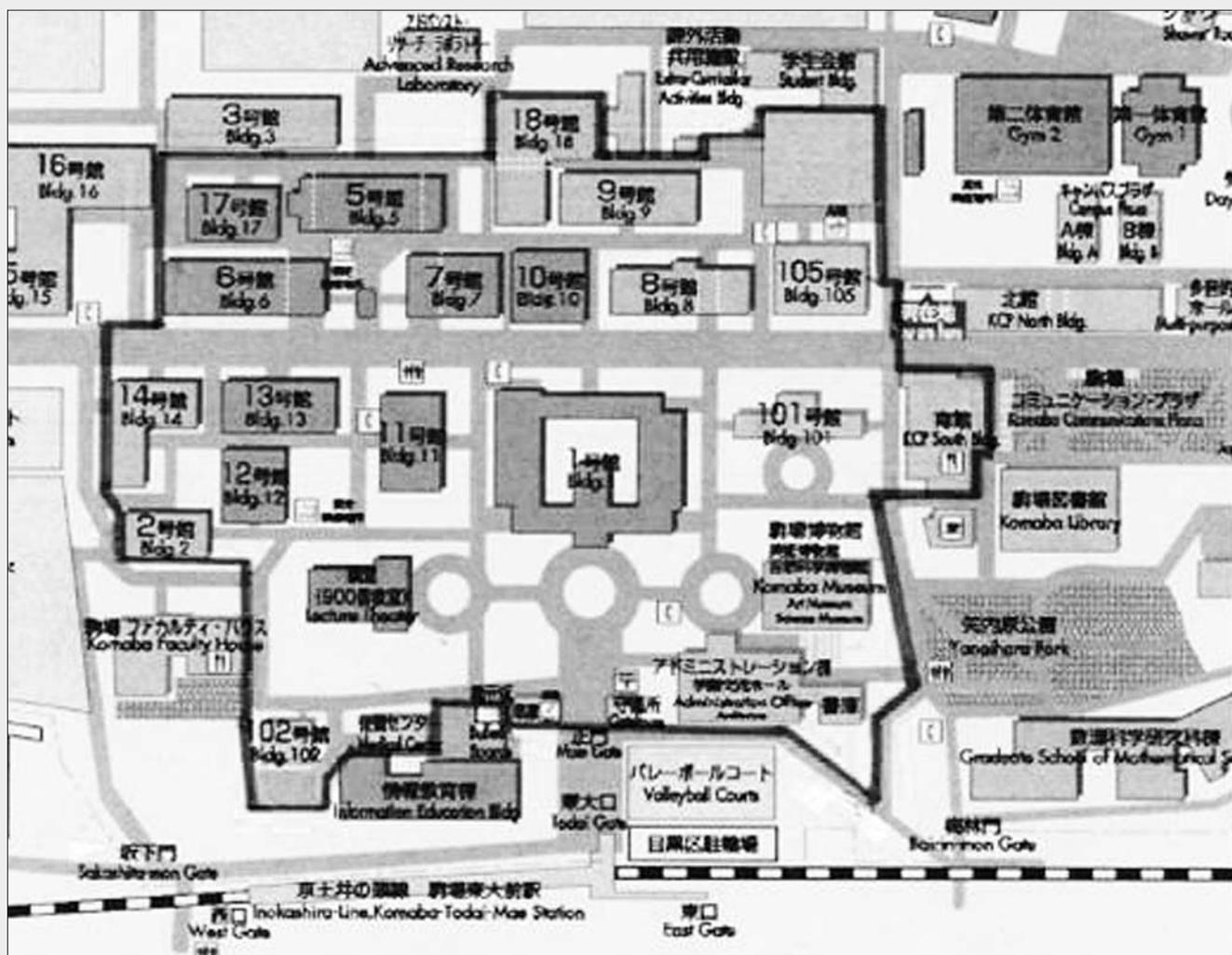
報道関係者等は、腕章による識別ではなく、本学広報委員会の発行する「入試特別入構証」を所持する者のみ入構を認める（報道関係者の取り扱いは、本学広報委員会を通じて行う。）。

2. 「入試特別入構証」の発行

「入試特別入構証」の発行手続きは、総務課総務係で行う（報道関係者を除く。）。

3. その他

入試当日、車輛の入構は原則として禁止する。



鈴木 敬 名誉教授



本学名誉教授・学士院会員 鈴木 敬先生は、平成19年10月18日ご逝去されました。享年86歳でした。先生は、大正9年12月16日に静岡県でお生まれになり、昭和19年9月に東京帝国大学文学部美学美術史学科をご卒業後、国立博物館、文化財保護委員

会事務局、東京芸術大学講師、同大学助教授を経て、昭和40年4月に東京大学助教授に就任、同42年9月に東京大学教授に昇任されました。また、昭和45年12月から同47年3月まで東洋文化研究所長及び同研究所附属東洋学文献センター長の職に就かれ、大学紛争の中で学内行政に尽力されました。昭和56年4月に停年退官された後、昭和55年11月に静岡県教育委員会事務局参与となり、昭和61年1月に新設の静岡県立美術館に初代館長として就任されました。

先生のご専門は中国絵画史であり、ことに中国絵画史を様式史として確立するために、従来文献的研究が主流であったこの分野で文献的考察を踏まえながらも、絵画作品そのものの構成、技法の分析を徹底して行われました。先生は、遺品の多い割合に文献史料が乏しいため、研究が回避されていた明代浙派の研究を手がけられ、この分野に様式面からの整理を与えるとともに、浙派成立の前段階としての“ブレ浙派”の概念を提唱されましたが、これは世界的に認められる様式概念となっています。さらに、先生は、日本において研究がたちおいていた北宋及び元時代の絵画史、ことに李成・郭熙派の研究を推進され、これらの美術史研究上の世界的な功績により、昭和59年11月3日紫綬褒章を受章されました。現在、次世代の中国絵画史の研究者の殆どが北宋・元時代の研究に集中しているのは、まさに先生の影響によるものであり、それらの研究は世界の水準を超えるものとなっています。先生は、また、美術史研究が何よりも作品そのものから出発しなければならないという自覚から、先生が所属した東京大学東洋文化研究所美術史・考古学部門を中国絵画の写真資料センターとするべく、研究資料写真の博搜に努められ、日本国内はもとより欧米、東南アジアに至るまで資料蒐集の調査旅行を行われました。その結果として集積された写真資料は実に20万点を超え、これらの資料は内外の研究者に公開されて、現

在世界で最も充実した内容を誇る「中国絵画写真アーカイブ」として広く知られるところとなり、ここに中国絵画史研究のための共通の場が提供されることになりました。先生のご功績が顕著であるのは、他に共通の場を提供するのみならず、自ら集積した「中国絵画写真アーカイブ」資料を縦横に駆使しつつ、それまでの自己の研究成果をも併せて、以前には全く例のない個人による中国絵画通史の執筆を始められたことです。これが『中国絵画史 上・中之一・中之一・下』として刊行を見えています。この画期的な成果は、昭和60年6月10日、日本学士院賞授賞の対象となり、広く内外に先生の学識を周知せしめることになりました。先生のご功績がより一層顕著であるのは、『中国絵画史』のような個人的業績に加えて、この「中国絵画写真アーカイブ」をさらに広く公共のものとするために、『中国絵画総合図録』（全5巻）の刊行を行なわれたことです。この図録は、現在、中国絵画史研究に不可欠の基本書・工具書として、世界的な声価を獲得し、『同図録 続編』（全4巻）に継承されるとともに、先生のご逝去時も実施中である『同図録 三編』刊行のための第三回中国絵画世界調査にまで繋がっています。このことは、とかく閉鎖的な研究が行われがちな美術史学界では画期的な出来事として高く評価され、平成2年12月12日、先生は日本学士院会員に推挙されました。先生の学問的業績は、上に挙げた『中国絵画史』『中国絵画総合図録』をはじめとして、論文、写真資料目録等多くの労作として発表されています。その成果は専門分野のみならず美術史更には芸術史全般に対して問題のとりあげ方、研究のあり方に深い示唆を与えており、先生の研究者としてのご功績を十分に裏づけるものです。

なお、学会関係では、昭和49年4月から同54年3月の5年間にわたって、美術史学会代表委員をつとめられ、東京国立博物館に美術史資料センター設立を働きかけて、その実現に尽力されるなど、研究・教育・行政すべての面から、日本の美術史学の発展を担われてきました。先生はその識見により、昭和63年の御講書始めの儀には、講師の任に当たられ、平成3年4月には、勲二等瑞宝章を受章されております。先生のご功績は、以上のように、わが国のみならず世界の美術史研究の先端から基礎まで、広範かつ永年にわたり新生面を開き続けてきたことにあります。

このたびの先生のご逝去は、誠に哀惜の念に耐えられません。ここに生前のご功績を偲びつつ、謹んで哀悼の意を表しご冥福をお祈り申し上げます。

(東洋文化研究所)

人事異動（教員）

発令日、部局、職、氏名（五十音）順

発令日	氏名	異動内容	旧（現）職等
（退 職）			
19.11.15	Ivanov Alexander Anatolievich	辞 職	大学院数理科学研究科教授
19.11.30	米原 啓之	辞 職	大学院医学系研究科准教授
（採 用）			
19.12.1	渡部 雅浩	気候システム研究センター准教授	北海道大学大学院地球環境科学研究院准教授
19.12.1	飯野 光喜	大学院医学系研究科准教授	
19.12.1	押山 淳	大学院工学系研究科教授	筑波大学大学院数理物質科学研究科教授
19.12.1	村田 茂穂	大学院薬学系研究科教授	
（昇 任）			
19.11.16	西出 和彦	大学院工学系研究科教授	大学院工学系研究科准教授
19.11.16	平手 小太郎	大学院工学系研究科教授	大学院工学系研究科准教授
19.11.16	廣瀬 明	大学院工学系研究科教授	大学院工学系研究科准教授
19.11.16	茅根 創	大学院理学系研究科教授	大学院理学系研究科准教授
19.11.16	後藤 晋	大学院農学生命科学研究科附属演習林准教授	大学院農学生命科学研究科附属演習林講師
19.12.1	國土 典宏	大学院医学系研究科教授	大学院医学系研究科准教授
（配 置 換）			
19.11.16	寺井 隆幸	大学院工学系研究科附属総合研究機構教授	大学院工学系研究科教授

※退職後又は採用前の職等については、国の機関及び従前国の機関であった法人等のみ掲載した。

東京大学における教員の任期に関する規則に基づく専攻、講座、研究部門等の発令については、記載を省略した。

Contents

特集

02 男女共同参画オフィス

NEWS

06 Prelog Award Medal 受賞

一般ニュース

- 06 [本部奨学厚生グループ](#)
「学寮・国際学生宿舎で消防訓練を実施」
- 07 [地球観測データ統融合連携研究機構](#)
第2回国家基幹技術「海洋地球観測探査システム」フォーラム
- 07 [環境安全本部](#)
東京大学喫煙対策宣言と喫煙対策基本方針の制定について
- 08 [本部キャリアサポートグループ](#)
平成19年度第2回学生窓口業務担当者講習会を開催
- 08 [本部奨学厚生グループ](#)
「東京大学外国人留学生特別奨学制度および姜裕文奨学基金（東京大学フェローシップ）平成19年度10月期研究奨励費受給者証書授与式」を開催

- 09 [本部人材育成グループ](#)
本学が2007年ユニバーサル技能五輪国際大会に初めての出席
- 10 [本部キャリアサポートグループ](#)
博士課程学生・ポスドクター対象企業説明会開催
- 10 [本部人材育成グループ](#)
東京大学教職員永年勤続者表彰式行われる
- 11 [本部留学生支援グループ](#)
平成19年度第2回「外国人留学生支援基金奨学生証書授与式」開催される
- 11 東京大学学部・研究科、研究所及びセンター事務（部）長OB懇談会開催
- 12 [本部入試グループ](#)
入試事務室の設置
- 12 [本部入試グループ](#)
平成20年度大学入試センター試験の本学割当数決まる

部局ニュース

- 13 [大学院数理科学研究科](#)
玉原国際セミナーハウスで「群馬県高校生玉原数学セミナー」を開催
- 13 [大学院総合文化研究科・教養学部](#)
三鷹国際学生宿舎で新入居留学生の歓迎会行われる

Contents

- 14 医科学研究所
慰霊祭行われる
- 14 分子細胞生物学研究所
第12回分生研シンポジウム開催される
- 15 大学院教育学研究科・教育学部
附属中等教育学校で「第2回三者協議会」が行われる
- 15 大学院教育学研究科・教育学部
平成19年度「留学生旅行」報告記
- 16 生産技術研究所
「外国人研究者・留学生との懇談会」開催される！
- 16 生産技術研究所
「第3回駒場キャンパス技術発表会」開催される
- 17 柏キャンパススリエゾン室
柏キャンパス一般公開開催
- 17 大学院総合文化研究科・教養学部
留学生見学旅行を実施
- 18 大学院教育学研究科・教育学部
附属中等教育学校で「学びの共同体」研究会行われる
- 18 分子細胞生物学研究所
動物慰霊祭
- 19 空間情報科学研究センター
CSIS DAYS 2007 を開催
- 19 大学院医学系研究科・医学部
解剖体慰霊祭が行われる
- 19 大学院法学政治学研究科・法学部
バーベキュー・パーティを開催
- 20 社会科学研究所
末廣昭教授「櫻山純三賞」の受賞について
- 21 アイントープ総合センター、大学院工学系研究科・工学部
放射線安全管理功労者表彰で文部科学大臣賞を受賞
- 21 医科学研究所
動物慰霊祭行われる
- 21 総合研究博物館
平成19年度「学芸員専修コース」の終了
- 22 大学院経済学研究科・経済学部
リーマン・ブラザーズ証券株式会社寄付講座懸賞論文表彰式が行われる
- 22 史料編纂所
図書館団地総合防災訓練実施される
- 23 海洋研究所
学術研究船「白鳳丸」見学会
- 23 留学生センター・地震研究所
留学生のための地震防災セミナー
- 24 大学院農学生命科学研究科・農学部
大学院薬学系研究科・薬学部
東京大学生物機能制御化合物ライブラリー機構・文部科学省ターゲットタンパク研究プログラム事務局
合同開設報告会・合同披露パーティー

キャンパスニュース

- 25 本部学務グループ
平成19年11月1日現在学生数 一学部学生 14,153人、大学院学生 13,500人、研究生等 845人

コラム

- 27 発掘！総長室総括委員会
～東大に生まれる新組織たち～ 第4回
- 28 Crossroad ～産学連携本部だより～ vol.25

- 29 Step by Step 東大基金通信 第8回
- 30 ケータイからみた東大
～東大ナビ通信 第2回～
- 31 Relay Column 「ワタシのオシゴト」 第22回
- 31 コミュニケーションセンターだより No.42
- 32 噴水 教育学部附属中等教育学校、全日本学生音楽コンクール東京大会で第1位
- 32 噴水 教育学部附属中等教育学校、詩のまち前橋若い芽のポエムで最優秀賞受賞

INFORMATION

シンポジウム・講演会

- 33 大学院工学系研究科・工学部
第3回ホロニックエネルギーシンポジウム—「分散型エネルギー資源の系統貢献とその実現方法」—開催のお知らせ
- 33 トランスレーショナル・リサーチ・イニシアティブ
先端医療開発研究シンポジウム ～未来の科学がここに姿を現し、豊かな暮らしを実現する

お知らせ

- 34 大学院総合文化研究科・教養学部
「教養学部報」第506（11月7日）号の発行——教員による、学生のための学内新聞——
- 35 大学院総合文化研究科・教養学部
「教養学部報」第507（12月5日）号の発行——教員による、学生のための学内新聞——
- 35 人文社会系研究科グローバルCOEプログラム
「死生学の展開と組織化」
「生と死をめぐる映画上映会I『ひめゆり』」を開催
- 36 本部学生支援グループ
年末年始の体育施設の使用及び受付について
- 36 保健センター
年末年始の診療日程のお知らせ
- 37 本部広報グループ
広報センター年末年始休館のお知らせ
- 37 本部入試グループ
平成20年度入学者募集要項配付
- 38 本部入試グループ
平成20年度入試に伴う臨時措置（本郷キャンパス）について
- 39 本部入試グループ
平成20年度入試に伴う臨時措置（駒場関係）について

- 41 訃報 鈴木敬名誉教授

- 42 人事異動（教員）

淡青評論

- 44 日本目録学の構築と古典学の再生のために

編集後記

◆表紙写真◆

第一期 東大女子学生に関する新聞報道（2ページに関連記事）

早いもので、もう年末。私も学内広報の担当になって半年が経ち、ようやく慣れてきた気がします。しかし、今回はご覧の通り44ページとボリュームたっぷり！その原稿の多さに、編集作業中は月刊化したことをひしひしと実感した号になりました。苦労した分、読者の皆様楽しく読んでいただけたら…と願いながらの校了でした。（こ）



七徳堂鬼瓦

日本目録学の構築と古典学の再生のために

近年、若い人を中心に古典離れの傾向があるといわれている。しかし、最近、ベストセラーとなっている新書に『日本人のしきたり』がある。著者は私が以前、宮仕えしていた役所の上司で、薫陶を受けた日本史の研究者である。しきたりの淵源は、平安時代から続く公家社会のコミュニティの中で形成され、変化しながら武家社会に伝えられ、今日に至った知識に基づくことが多い。これらの知識は、専ら古典籍によって伝えられたものである。古典離れといわれるが、現代社会も、存外、古典に対する関心を潜在的に持っているといえよう。

前近代の日本では、伝統的な知識やその体系が主に天皇家を中心とした公家社会や公家文庫群を媒介に世代を超えて保管され、限られたネットワーク内での書籍の貸借と、手書きによる書写によって伝えられてきた。木版印刷が盛んになった江戸時代以降も、書写行為は連綿と続けられたので、その写本の総数たるや膨大なものである。古くは奈良・平安時代から江戸時代にいたるまで、手書きの写本が数十万点以上伝存することは世界的にも希有なことだ。

こうした王家や公家の諸文庫の蔵書群を、一つのまとまりとみて、各時代の知識体系のデータベースと捉えてみる。これを、伝来の変遷という通時的な座標軸と、ある時点での各文庫の分類のあり方という共時的な座標軸とで、立体的に認識してみると、知識体系の構造を解明する有効な手段となる。そのような方法に加えて、各時代・各所属先における蔵書目録を活用し、これにデジタル画像などによって、写本そのものの画像を組み合わせることにより、日本独自の目録学を創成し構築することを提唱している。

幸いこの提唱は、「目録学の構築と古典学の再生－天皇家・公家文庫の実態復原と伝統的知識体系の解明－」として、科学研究費（学術創成研究費）に採択された（2007年度から5年間の予定）。歴史・文学を中心とした人文社会系では全国でも初めての大型プロジェクトであり、研究代表者として、その責任に身の縮まる思いである。

現在、史料編纂所は研究所の心臓部とも言える書庫を含む別館建物（私の研究室も所在）が耐震性能不足問題を抱え、補強工事に備えた研究資源の利用制限や研究スペース不足等、深刻な問題の渦中にある。研究所や本部のご理解を得つつ、なんとかこれを乗り越え、着実な成果を出してゆきたいと思う。

田島 公（史料編纂所）

（淡青評論は、学内の教職員の方々をお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。）

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、本部広報グループを通じて行ってください。

No.1367 2007年12月14日
東京大学広報委員会

〒113-8654
東京都文京区本郷7丁目3番1号
東京大学本部広報グループ
TEL：03-3811-3393
e-mail：kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
<http://www.u-tokyo.ac.jp>